

2025

一般職
入省案内

総務省

先輩からのメッセージ



採用に関するお問い合わせ
総務省大臣官房秘書課

〒100-8926 東京都千代田区霞が関2-1-2
中央合同庁舎第2号館7階
(代表) TEL.03-5253-5111
(直通) TEL.03-5253-5074・5075



総務省HP採用情報
https://www.soumu.go.jp/menu_syokai/saiyou/index.html



X 総務省一般職採用アカウント
(説明会等の採用情報を随時更新しています。)
https://twitter.com/mic_recruit



CONTENTS

4 総務省の組織

MESSAGE (本省)

情報通信(ICT)

- 6 あるべき社会を考える／岩井 優介
- 8 自分だけのキャリアパスを築く／大坪 奏子
- 9 通信とは、気持ちを通わすこと／樋口 有二
- 10 日本の技術を世界へ／佐伯 吉章
- 11 周波数再編でその先の電波利用へ／手塚 紗衣

行政管理／行政評価／統計

- 12 様々な業務の中で成長を！／菅谷 元洋
- 14 行政の形を創り上げていく、ということ／岸 敏之
- 16 行政の変革(課題発見・解決)へ／高原 旭
- 17 多様なフィールドで行政改善に携わる／三好 なみ

地方自治／消防

- 18 「地方のために」を実現する場所／水野 さやか
- 20 地方の想いを政策に／廣邊 健太郎
- 22 地域を支える身近な税／花堂 在啓
- 23 地域の安全を支える／林 里保

若手職員に聞いてみました

- 24 若手職員対談
- 25 若手職員の1日／伊藤 佳
- 26 アンケート

MESSAGE (地方支分部局)

- 28 現場で行政を担う立場として／大隈 拓郎
身近にある無線通信技術／久岡 亜梨亜
- 29 中部の声を国へ届ける／炭田 彩夏
現場の視点から紡ぐ、行政の変革／竹内 慧

MESSAGE (地方自治体・出向・海外)

- 30 日本の「たからのまち」のために／福島 浩
- 31 国と地方をつなぐ存在に／渡邊 正城
「地方」の現場から「国」を考える／卯田 圭吾
- 32 国と地方、二つの視点で課題に向き合う／赤間 博貴
総務省に興味・関心のある皆様へ／井上 明
- 33 国と地方それぞれから得る学び／坂本 恭子
官民によるサイバーセキュリティの確保／中里 伸成
- 34 チャレンジできる環境／藤井 望美
統計の作り手から使い手へ／宮原 百合子
- 35 i 求む、求む！／橋本 秀哉
ラオスの温かさに触れて／加藤 剣
- 36 院で学ぶ／高木 啓悟

CAREER PATH

- 37 キャリアパス／研修制度
- 38 挑戦のフィールドは国境を越えて／青木 勇司
- 39 暮らしを支え、未来につなぐ仕事／藤田 真弓
- 40 地方自治分野のススめ〜知識と経験を活かせる人生に／安藤 陽

- 41 ワークライフバランス
- 42 採用Q&A
- 43 採用チームからのメッセージ

くらしの中に総務省

総務省は、日本全国にわたる基本的な仕組みから、
国民の経済・社会活動に関わる諸制度を担う、
国家の根本を支えている省庁です。

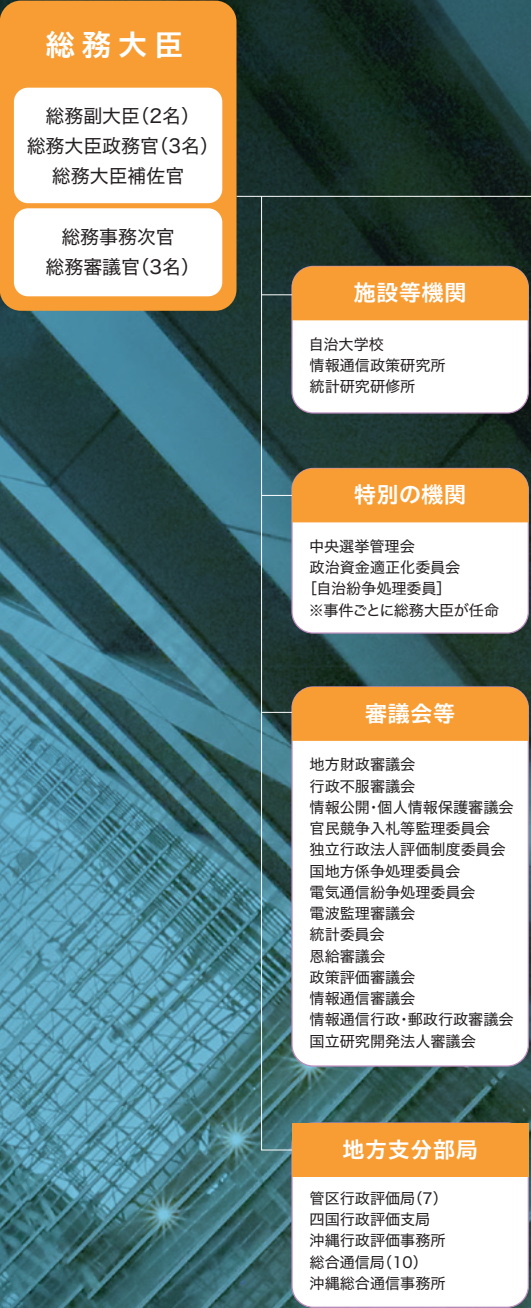
その所掌範囲は、国の基本的な行政制度の管理・運営、
地方自治（地方分権改革・地域活性化）や消防・救急行政、
情報通信技術（ICT）を活用した成長戦略の実現と、多岐にわたっています。

少子・高齢化の進展、地域間格差の拡大、国際競争力の強化など、
我が国は多くの課題に直面しています。

今後も私たちは、「総て」を「務める」省庁として、
総合性を生かしながら、我が国の行政を担っていきます。



総務省の組織



大臣官房	秘書課 総務課 会計課 企画課 政策評価広報課
行政管理局	企画調整課 調査法制課 管理官
行政評価局	総務課 企画課 政策評価課 行政相談企画課 評価監視官 行政相談管理官
自治行政局	行政課 住民制度課 市町村課 地域政策課 地域自立応援課 参事官 公務員部 選挙部 公務員課 選挙課 福利課 管理課 政治資金課
自治財政局	財政課 調整課 交付税課 地方債課 公営企業課 財務調査課
自治税務局	企画課 都道府県税課 市町村税課 固定資産税課
国際戦略局	国際戦略課 技術政策課 通信規格課 宇宙通信政策課 国際展開課 国際経済課 国際協力課 参事官
情報流通 行政局	総務課 情報通信政策課 情報流通振興課 情報通信作品振興課 地域通信振興課 放送政策課 放送技術課 地上放送課 衛星・地域放送課 参事官 郵政行政部 企画課 郵便課 信書便事業課
総合通信 基盤局	総務課 電気通信事業部 事業政策課 料金サービス課 データ通信課 電気通信 技術システム課 安全・信頼性対策課 基盤整備促進課 利用環境課 電波部 電波政策課 基幹・衛星移動通信課 移動通信課 電波環境課
統計局	総務課 事業所情報管理課 統計情報利用推進課 統計情報 システム管理官 統計調査部 調査企画課 国勢統計課 経済統計課 消費統計課
政策統括官	統計企画管理官 統計審査官 統計調整官 国際統計管理官 恩給管理官
サイバー セキュリティ 統括官	参事官
公害等 調整委員会	総務課 審査官
消防庁	総務課 消防・救急課 予防課 国民保護・防災部 防災課 参事官 施設等 機関 消防大学校 審議会等 消防審議会

(注) 組織図は政令以上で想定される主要組織のみを示しています。(令和7年2月現在)

MESSAGE

情報通信 (ICT)

あるべき社会を 考える

国際戦略局国際経済課
多国間経済室APEC係長

岩井 優介 Iwai Yusuke

平成27年入省



自由で公正な貿易・投資体制の推進

皆さんの日々の生活において、低価格で多様な他国の製品やサービスに触れる機会は多いと思いますが、その機会は国際貿易の拡大を通じた経済効率性の向上や自由化等によりもたらされています。

しかしながら、過去数年、米中間の緊張の高まりや新型コロナウイルスの拡大、ロシアによるウクライナ侵略等世界の不確実性が高まる中、各国による輸出・投資管理政策の強化や自国中心主義的な産業政策の動きなど、世界経済のブロック化につながりかねない動きも見られます。

こうしたグローバル経済の危機への対処として、政府では、ルールに基づく自由で公正な貿易・投資体制を推進するべく、世界貿易機関（WTO）や経済連携協定（EPA）等でのルール形成等に努めています。

総務省が所掌する情報通信分野においても、外国企業の参入を認めない国もあれば、イノベーション・経済活動を重視する国など各国の立場は様々なところ、日本と価値観の違う国々との間でも双方得るものがあるように交渉等を進めています。一単語のニュアンスの微妙な違いを確認する場面もあり、英語が不得手な私は毎日四苦八苦ですが、上司とも協力しながらチームで日々業務に取り組んでいます。

皆さんが思うあるべき社会とは？

皆さんは日々の場面場面で社会のあるべき姿を思い描くことはありますか？

総務省のミッションの一つである「安心・安全にインターネットを利用できる社会の実現」を例にとって考えてみると、その言葉には誰もが賛成できるものだと思います。しかしながら、その姿を実現する方法まで掘り下げると、表現の自由や通信の秘密と、治安のバランスをどのように考えるかで、国家による監視等の法的規制が望ましいとする立場や、事業者の自主的な取組が望ましいとする立場がそれぞれ生まれ、あるべきとする安心・安全の姿が異なることがあります。

社会的課題に対してどのような対策を取るかは、必ずしも絶対の解があるものではありません。対策に当たっては、現在起こっている問題を調査し、あるべき姿を考え、関係者を交えて議論を尽くし、合意できた策を実行する必要がありますが、そのプロセスにおいて行政が果たす役割は依然大きいです。

その役割を果たすのは大変ですが、一人で業務をするわけではありません。悩むことがあれば、同僚や上司に気軽に相談、時には議論できる雰囲気は総務省にはあります。本書を読む皆さんとも、今後のあるべき姿の実現に向けて一緒に取り組めることを願っています。

Q

総務省を志望した理由は何ですか？

もともと公共的・社会的問題の解決に携われるような仕事に関心があり、様々な業界・省庁でお話を伺いました。その上で、情報通信行政を志望した理由は2点ありました。まず、技術革新が急速に進む情報通信分野が今後社会的基盤としてより重要になるはずと考えたためです。もう1点は、情報通信を支える電気通信や電波、放送、郵便等の各業界・分野を集中的に深掘りしていく道を考えることもできますし、情報通信技術・サービスという一つの専門分野を軸とともに、国際関係や安全保障、公正競争、振興施策等々別の軸をかけあわせた人材になることもできるのが魅力的だと思ったためです。

現在、世界のICT市場規模は10年前の2倍近くとなっており当時の見立ては間違っていなかったものと思います。私自身がこういった道を進むのかについては模索中ですが、日々変化する技術や社会へ対応できるような人材を目指したいと思います。

とある1週間

- 月 APEC出張に向け、会合資料等に対する方針を室内で検討。
- 火 会合中に行うプレゼン資料の作成等準備。
- 水 プレゼン資料について外部打合せや関係課室との調整。
- 木 上司が議長を務める会合の進行等に関してAPEC事務局への確認。
- 金 出張に向けた最終準備。いざメキシコに！



国際会議の様子@メキシコ（2024年9月）

CAREER PATH

大臣官房時代

平成29年7月～令和元年7月
大臣官房総務課

総務省では情報通信のほかにも、行政管理・評価、統計、地方行財政、消防等の分野を所管しています。そうした総務省に関わる全ての所掌に関して、連日行われる国会（予算委員会等）対応の取りまとめや議員事務所からの問合せ等に関する省内担当部局との調整等を担当していました。

配属直後は情報通信分野の中でも自分がこれまで担当していた範囲でしか総務省を認識していなかったところ、改めて総務省の所掌の広さや影響力の大きい問題を取扱っていることに驚きました。また、国会に関わる各種プロセス等を学ぶことができ、その経験は今でも役立っています。

サイバーセキュリティ統括官室時代

令和元年7月～令和2年10月
サイバーセキュリティ統括官室

情報通信の安心・安全を守るには、ネット空間上の安全を確保するとともに、情報通信を支えるネットワークをサイバー攻撃から防護することも重要です。また、大規模なインフラを守るだけでなく、皆さんが身の回りで使っている様々なモノがインターネットにつながる時代になったことで、それらが乗っ取られ攻撃の踏み台として悪用されないようにケアすることも重要です。

そのようなサイバー攻撃に備えるべく、企業や研究機関の研究者の方々とも連携しながら、将来的な脅威を見据えた研究開発事業や研究開発を促進する環境整備等に取り組んでいました。

総合通信基盤局時代

令和4年6月～令和6年6月
総合通信基盤局電気通信事業部
利用環境課違法・有害情報対策係長

インターネットを活用したSNS等の新たなサービスは我々の生活をより便利にする一方で、誹謗中傷を含む名誉毀損やプライバシー侵害、海賊版サイトによる著作権侵害を引き起こしたり、自らの検索履歴やGPS位置情報等が思わぬ形で利用されたりしてしまうこともあります。

こうしたネット上の違法・有害情報対策やプライバシーの保護のため、法律やガイドラインの整備、その円滑な運用のための事業者等との調整に携わりました。いずれの業務も関係者が多く、また世間的な関心も高いもので苦労は絶えませんが、その分やりがいも感じられるものでした。

MESSAGE

情報通信 (ICT)

自分だけの キャリアパスを築く

総合通信基盤局電気通信事業部
利用環境課制度係長

大坪 奏子 OTUBO kanako

平成30年入省



「通信の秘密」を守る

もしあなたのメールの内容や電話の内容が、サービス提供事業者が自由に見られ、いつでも利用できてしまったらどう思うでしょうか？安心してサービスを利用できませんよね。そんなことが起こらないように、電気通信事業法4条では電気通信事業者がメールの内容や通信履歴といった「通信の秘密」を侵すことができないよう、法律で定めており、侵害した事業者には罰則が課せられます。利用環境課ではこの電気通信事業法4条等を所管しており、様々な通信手段のサービスが「通信の秘密」を侵害していないか、どういったサービスであれば侵害に当たらないのかといった法解釈の運用や、電気通信事業者が通信の秘密の漏えい事故を起こしてしまった場合の行政上の適切な監督措置の対応を行っております。



課内の打合せの様子

自分らしく働ける職場

入省するまでは、国家公務員というのは堅い組織、という印象が強く、上下関係のしっかりした、厳しい職場という印象を持っていました。ところが入省してからは上下関係が厳しすぎず、雑談もしやすい明るい雰囲気職場であることが分かり、印象が大きく変わりました。上司もちょっとした相談でも快く聞いてくださるので、悩みを抱えた際も非常に相談しやすいです。また、若手の意見もきちんと聞いて取り入れてもらえるので、入省当初から遠慮せずに自分の意見を述べられました。のびのびと働ける働きやすい職場だと実感しております。総務省に興味あるかも、と思っていただけた方、まずは説明会等でお気軽にお越しいただければと思います。

Q 総務省ならではの魅力は？

総務省の魅力は多様な業務に携われることだと思います。私自身が入省してからの7年間だけでも、地域活性化のためのテレワーク推進に係る補助事業執行、国会業務にかかる連絡調整対応・委員会運営、他省庁での業務、放送分野における情報アクセシビリティに関する指針の見直し対応、省内の人事関係業務等、多様な業務の経験することが出来ました。幅広い業務を経験しているように見えるかもしれませんが、この他にもまだまだ情報通信分野では多様な業務があります。様々な業務を経験する中で、多角的な視野を持ち、これまでの業務経験を次に活かせるようになっていきます。その他自治体への出向や、海外の大使館で勤務している先輩方もおり、一人一人が異なる思い思いのキャリアパスを築くことができるのは大きな魅力です。

通信とは、 気持ちを通わすこと

情報流通行政局郵政行政部
企画課課長補佐

樋口 有二 HIGUCHI Yuji

平成18年入省



くらしを支える

みなさんは最近、郵便局を利用したことはありますか？手紙や宅配便のほか、貯金や保険の窓口もあり、誰もお世話になったことがあると思います。インターネットや電話よりも歴史は古く、1871年（明治4年）に郵便事業が始まってから、人々の思いを伝え、生活を支えてきました。民営化を経て、現在でも全国に約24,000の郵便局がサービスを提供しています。

私は日本郵政グループ全体の業務を担当しており、関係企業の方々と議論を交わしながら、こうしたサービスを全国で提供し、維持できるよう、いろんな調整をしています。

時代や技術が進むとともに生活は変化していきます。郵便局も昔からずっと同じではなく、地域・住民のニーズに合わせて進化することが求められる中で、我々はどうのように支えていくのか。

誰もが利用したことがあるサービスだからこそ多くの意見があります。様々な課題がありますが、その分だけ、くらしを支えていることを実感できます。

「やりたい！」を実現する

総務省にはいろいろな魅力がありますが、そのひとつが幅広い業務範囲だと思います。国民生活の多くのシーンに関わっていますが、その中でも情報通信分野では、デジタル技術やサービスがどんどん進化していく中、職員みんなが常に新しい考えで業務に取り組んでいます。

あらゆる分野の活動を支え、新たな価値を生み出すためには、もはや情報通信なしには考えられないと思います。仕事も遊びも、情報通信が生活をもっと楽しくする、私もそんな

可能性や魅力に惹かれて総務省に入りました。そんな“なんでもあり感”がある職場ですので、あなたの「やりたい！」と思っていることに携わる機会が必ずあります。

あなたがもっと上げたいこと、解決したいこと、実現したいこと……。情報通信の発展を支えることを通じて、この国の将来の可能性に、私たちとともにチャレンジしていきませんか？その日が来ることを楽しみにしています。



外国政府に日本の郵政行政の概要を説明

Q これまで携わった仕事で 達成感があった仕事は何ですか？

情報通信分野の仕事に多く携わりつつも、地方自治体（市役所）に出向していたこともあります。国の立場で全体を支えるために考えてきたことを、まさにサービスが提供される現場である地域で、住民と向き合いながら政策を展開する。国よりも距離が近く、自分が行う施策が顔も名前も知っている近所の皆さんの生活や仕事に直接影響するので、責任感と緊張感があります。

ちょうどコロナ禍の時期であったため、キャッシュレス化やテレワーク環境の構築に関する地域の事業者への支援をはじめ、デジタルを活用した新しい仕事・生活の様式にシフトしていくための取組を企画・実行しました。

理解が難しいテーマもありましたが、地元の皆さんと向き合い丁寧に説明しながら政策を進め、「おかげで助かったよ。ありがとう。」と言われたときは、ここまでの努力が実を結んだことが心底感じられて、グッとぎちゃいました。

MESSAGE

情報通信 (ICT)

日本の技術を世界へ

情報流通行政局放送技術課国際係長

佐伯 吉章 SAEKI Yoshiaki

平成24年入省



国際標準化という仕事

私は現在放送技術の国際標準化を主に担当しています。国際標準化とは、国内事業者等の開発した技術を国際的なルールの中で使われるようにすることで、国際競争力の強化等を狙うことができます。電波の場合は、どこかの周波数を何に使うかといったことも決めています。

放送技術の、主に地上波に関係する国際標準化は、国際電気通信連合無線通信部門（ITU-R）で議論されていて、年に2回、2週間程度の会議がジュネーブ等で開催されます。また、ITU-Rでは、周波数の分配等について議論されるWRC（世界無線通信会議）という大きな会議も4年に1度開催されます。

ITU-Rでの国際標準化を目指す文書は、事前に国内での調整を行う必要があり、放送の場合は、放送業務委員会での検討を経て、JAPANとして入力することとなります。私の業務では、その委員会を事務局として開催するとともに、国際会合には提案事業者とともに出席して、必要に応じて関係国との調整や発言等を行っています。



2023年に開催されたWRC

情報通信技術はどこにでも

総務省は情報通信技術を所管していますが、今の時代は情報通信技術がどこにでも活用されているので、入省すると、世の中の様々なものに関わる仕事をすることができ、とても幅広い経験を積むことができると考えています。

私は現在放送関係の業務を担当していますが、これまでに

は航空関係、サイバーセキュリティ、障害者や高齢者向けの情報通信政策、研究開発の推進、電話番号の制度などの担当を経験してきており、いずれも特徴的な独自の業界で、それぞれ時代の最先端に触れることができ、とても刺激的で楽しい生活を送ってくることができました。スカイツリーの上の方や空港の管制塔に登らせてもらったことなどいい思い出です。

総務省に興味をお持ちの皆さんは、ぜひ情報通信技術という意識で日々のニュースを見てみてください。そこには総務省の仕事が隠れているかもしれません。



スカイツリーに向けた放送用アンテナ

Q 国家公務員の魅力は何ですか？

国家公務員の魅力と言えるのは、何より国を動かしているという実感が得られるところではないでしょうか。私にとってそれは、仕事のやりがいとして人生を充実させることにつながっていると思います。私も様々な業務を担当しましたが、自分の関わった新しい技術や制度が世の中に導入され、それらがニュースになることは、大変な面もありますが、嬉しいものです。

情報通信技術の場合は常に進化している分野なので、時代の最先端のものを扱うこととなり、まさに未来の世界を自分で作っているような感覚です。子供の頃ドラえもんが好きだった私は、未来の世界というものに対する憧れが強いのですが、情報通信技術による昔は想像できなかったような様々な時代の変化を目の当たりにしてきたので、これからの未来を想像するとワクワクします。今の自分の仕事が、後の日本や世界を少し良くすることにつながると考えると、明日も仕事を頑張ろうと思えるものです。

周波数再編で その先の電波利用へ

総合通信基盤局電波部
電波政策課周波数調整官

手塚 紗衣 TEZUKA Sae

平成15年入省

周波数再編、計画中です

皆さんは「周波数再編アクションプラン」をご存じでしょうか。電波は有限希少な資源です。その有効利用の促進と、新たな電波利用システムの導入や周波数の需要増に対応するために作成している、周波数の移行・再編の行動計画のようなものです。

私は現在、携帯電話や無線 LAN などの無線システムごとの個別の計画を、総務省としての「周波数再編アクションプラン」として取りまとめる業務に携わっています。

近年、無線の利用は拡大しており、周波数再編アクションプランに掲載されている無線システムも増加しているとともに、デジタル化等の進展も踏まえ、周波数再編の流れもよりスピーディになっています。

技術の進歩が著しい分野となりますが、関係者が少しでも予見性を持って無線システムの開発・活用を検討していけるよう、日々様々な検討に対してアンテナを高く持ち、勉強を続け、より先を見据えたアクションプランとなるよう調整を続けています。



周波数再編に向けて調整の日々

総務省は、働き方も多種多様です

総務省は、行政運営の改善、地方行財政、選挙、消防防災、情報通信、郵政行政等、扱う業務も幅広いですが、そこで働く職員もまた多種多様な働き方をしていると感じています。コロナ禍を経て、テレワークやフレックスタイム制を活用し

た勤務も定着してきました。

そのため、私のような仕事と育児を両立しようとしている職員も自然と増え、それぞれが自分に合うフィールドで全力で業務に取り組むことができていると思います。

私の場合、例えば、同じ公務員の夫と家事を分担しながら、時には審議会や国会対応をしたり、また時には業務内容について説明会をしてみたり、果てには海外赴任に同行したり…先輩方が調整してくださった様々な制度を活用しつつ、気づいてみたら、自分のキャリア（というほどのものでもありませんが）がつながっている、と感じています。



テレワークを積極的に活用中

Q 今までに一番印象に残った仕事はなんですか？

どの仕事もそれぞれ印象深く1つを選ぶのは大変難しいのですが、あえてあげるとすれば、第5世代移動通信システム（5G）の最初の技術基準の策定に携わったことです。

今では皆さんのスマホにも「5G」というピクト表示がされることもあると思います。

私にとって技術基準の策定に関わるのは初めてで、右も左もわからぬ中、日本で可能な限りスムーズに5Gが使用可能となるよう多くの関係者とギリギリまで調整したことを覚えています。

調整していく中で5Gへの各方面からの期待を肌で感じ、自分の業務の重責を再認識するとともに、最終的に関係法令が官報に掲載されたのを見た時の達成感とは他と比較できないほどであり、自分の成長も実感できた業務でした。

私事ですが、当時第3子を妊娠中であり、上司や同僚の理解と協力を得て、上の子供達の保育園のお迎え等をしながら乗り切ったことも合わせて、とても印象に残っています。

MESSAGE

行政管理 行政評価 統計

様々な業務の中で 成長を！

統計局統計調査部国勢統計課
労働力人口統計室企画指導第一係長

菅谷 元洋

SUGAYA Motohiro

平成27年入省



統計は、意思決定の礎に！

労働力調査という調査の企画・運営を行っています。労働力調査は、全国で毎月行われており、調査から得られる失業率などの結果は、景気判断や雇用対策に活用されています。労働力調査に限らず、統計データは、国の機関や、国民の皆様の意思決定のための基礎的な判断材料となるものですので、そのような重要なデータをつくることに携われていることは、私自身やりがいにつながっているかなと思います。統計調査の実施にあたっては、総務省だけで行うのではなく、都道府県に調査員の雇用・指導、調査対象世帯への回答の依頼などの事務を行っていただいております。このため、日々の業務は、都道府県庁との連絡が多くなります。また、労働力調査は戦後間もない頃に始まった歴史のある調査ですが、調査の実施においては、今の社会情勢に沿った方法を考えなければいけません。このため、調査手法の検討や、より調査対象の方に答えていただきやすい調査用品の考案なども行っています。



調査用品についての打合せ

自分の幅を広げられます！

幅広い業務を経験できると感じています。一口に統計と言っても、調査の実施のほかに、結果の分析、公表資料の作成、調査の広報活動、データ利用の推進など、幅広い業務があります。私自身も、調査の実施や、公表のほかに統計基準策定のための国際会議へ出席させていただいたりなど、入省前に想像していたよりさまざまな業務に携われたなと思っており、その中で、自分の知らなかった自分の強みや弱さを知れたかなと思っています。

また、総務省では、年々柔軟な働き方が実現できるようになってきていると感じます。私自身テレワークも活用しながら働いていますし、お子様が生まれた場合は、男女問わず皆様育休を取得していらっしゃいます。

皆様もプライベートを充実させながら、幅広い業務の中で成長していくことができます！



国際会議の参加者と撮影

Q

仕事をする上で心がけていることはなんですか？

国民の幸福に寄与するのが公務員の仕事かと思いますが、公務員として働く周りの方々の幸せについてもなるべく考えられたらと思っています。私の仕事の立場上、同僚にも、都道府県職員にも指示することが多く、基本的に皆様の時間を使い仕事をしてもらう立場にあります。同じ部屋で働く同僚や、日々やりとりする都道府県の職員、また、調査員さんの方々にそれぞれ生活がありますので、なるべくプライベートの時間を確保してもらえよう、時間的コストをなるべくかけず仕事をしてもらえるような指示ができるよう心がけています。余談ですが、私自身もなるべくプライベートは充実させたいと思い、長期の休みなどでは旅行に行くようにしています！



夏休みにアメリカ旅行に行ってきました

とある1週間

- 月 会議の準備
調査対象世帯や、都道府県職員からの問い合わせの対応。
- 火 用品の検討。見やすさ、わかりやすさなどの観点でデザインを検討します。
- 水 県へ出張し、県での調査員指導会への参加。現地で宿泊。
- 木 県庁にて県職員と事務打ち合わせ。県での調査実施状況等について。
- 金 (テレワーク) 事務処理、都道府県職員からの問い合わせの対応。

CAREER PATH

総務課時代

平成27年4月～平成28年6月

総務課審査係

入省し、初めて着任した係になります。主に外部向けに公表する資料について、内容・体裁に問題がないか審査する業務になります。入省当初、私自身文書を読むことに苦手意識がありましたが、法律案や、公表資料など様々な文書を審査する中で、おおよそ国で扱う文書の種類を知れたこと、文書を読むこと自体にも慣れ、苦手意識を少し克服できたかなと思います。入省後最初に就く業務として、大変良い経験だったと思います。

消費統計課時代

平成30年4月～令和3年9月

消費統計課審査発表係

家計調査という調査の公表に携わりました。統計調査は公表される数値が誤っていることはあってはなりませんので、公表される資料は大変慎重に作成しなければなりません。複数の職員でチェックを行いながら、資料を作成していく作業は、緊張感がありながらも、無事公表できたときには達成感があり、統計局ならではの貴重な経験でした。家計調査の結果は、“餃子の消費量日本一はどこか？”など、興味を惹かれる内容が多く、私自身毎月結果が出るのを楽しみにしていました。また、若手の方が多く楽しい職場でした。

労働力人口統計室時代

令和3年10月～

労働力人口統計室企画指導第一係

現在の仕事になります。現在の仕事につくまでは、統計局の内部で完結する仕事が多かったのですが、こちらの仕事では、調査を受けていただいている国民の方や、都道府県職員とのコミュニケーションが多くなり、様々な方とやりとりする中で、自分の幅を広げられたかなと思います。また、各国の政府から出席し、統計の国際基準について話し合う国際会議に出席し、各国が集まる大きな会議場は、まるで映画のワンシーンのようで、自分がその参加者の一人となっていることは、国の職員ならではの貴重な経験でした。

MESSAGE

行政管理 行政評価 統計

行政の形を 創り上げていく、 ということ

行政評価局総務課調整係長

岸 敏之 KISHI Toshiyuki

平成21年入省



「政策を前に進める」 こと（人）を「後押しする」

総務省行政評価局は、各府省が実施した政策について自ら評価を行い、自己改善を促す「政策評価制度の推進」、各省とは異なる立場で政策効果の把握・分析を行い、改善に資する情報を提供する「行政運営改善調査」、直接国民から意見・苦情を聴き、個別課題の解決を図りつつ、行政運営上の課題を探る「行政相談」の各機能を用いて、政策設計・運営上のボトルネック（目詰まり）を発見し、その解消を図ることで、各府省が自らの政策の効果を更に高め、政策を前に進める取組に貢献することをミッションとしています。

この目的のために日々邁進する各課室の職員が、業務を円滑に遂行できるよう、総務課の職員として、必要に応じた助言をしつつ、日々の業務の進行管理、局内・省内幹部への説明案件の調整、管区行政評価局とのやりとりなどを通じて後押しし、当局業務の効果の発現の最大化を図ることが、私のミッションです。



局内での打ち合わせ

「面白そう！」が、 いつの間にか「面白い！」へ

今回、この原稿の執筆をきっかけに、私の入省時のことを思い返してみました。入省前の私は、就職活動を通じて多くの先輩方から業務について伺い、自らの所掌にとらわれることなく、国家行政全体のマネジメントを行う総務省の業務を本当に楽しそうに語る姿を見て、「面白そう！」と惹かれました。

入省後、先輩方がなぜ楽しそうに語っていたのか理解できました。私たちが担う行政制度の管理運営の仕事は、新しい業務の在り方を創り上げていくという面で、必ずしも正解が用意されているわけではありません。だからこそ、担当や職位など関係なく、日々自由闊達な議論が行われます。「誰かがやるから」ではなく、「すべてが自分事として、自分の思いをぶつけて」業務に当たることができるのです。楽しくないわけがありませんよね。いつの間にか私も、自分の業務を「面白い！」と思うようになりました。

もし、総務省の業務を「面白そう！」と感じてくれたなら、きっと「面白い！」と感じられます。一緒に総務省の業務をやってみませんか？

Q

仕事をする上で心がけていることはなんですか？

昨今、急速なデジタル化が進み、DX（デジタル・トランスフォーメーション）という言葉も当たり前に聞かれるようになりました。それは役所の業務でも同様で、各府省では、目まぐるしく変わる社会に合わせ、政策の見直しや既存業務の効率化などを行っています。

それでも、我々の業務は結局のところ、人と人のつながりが要所で重要となるように常に思います。デジタル化が進んでいく世の中にあっても、そこには必ず人が介在しており、「この「人」が業務を行いやすくするためには何が必要だろう」という意識を持ち続けて業務に当たることを心がけています。日々のたわいもない会話や、業務時間外での交流なども、（私も楽しいですし、）人と人が仕事をする上で重要な要素の1つだと感じます。

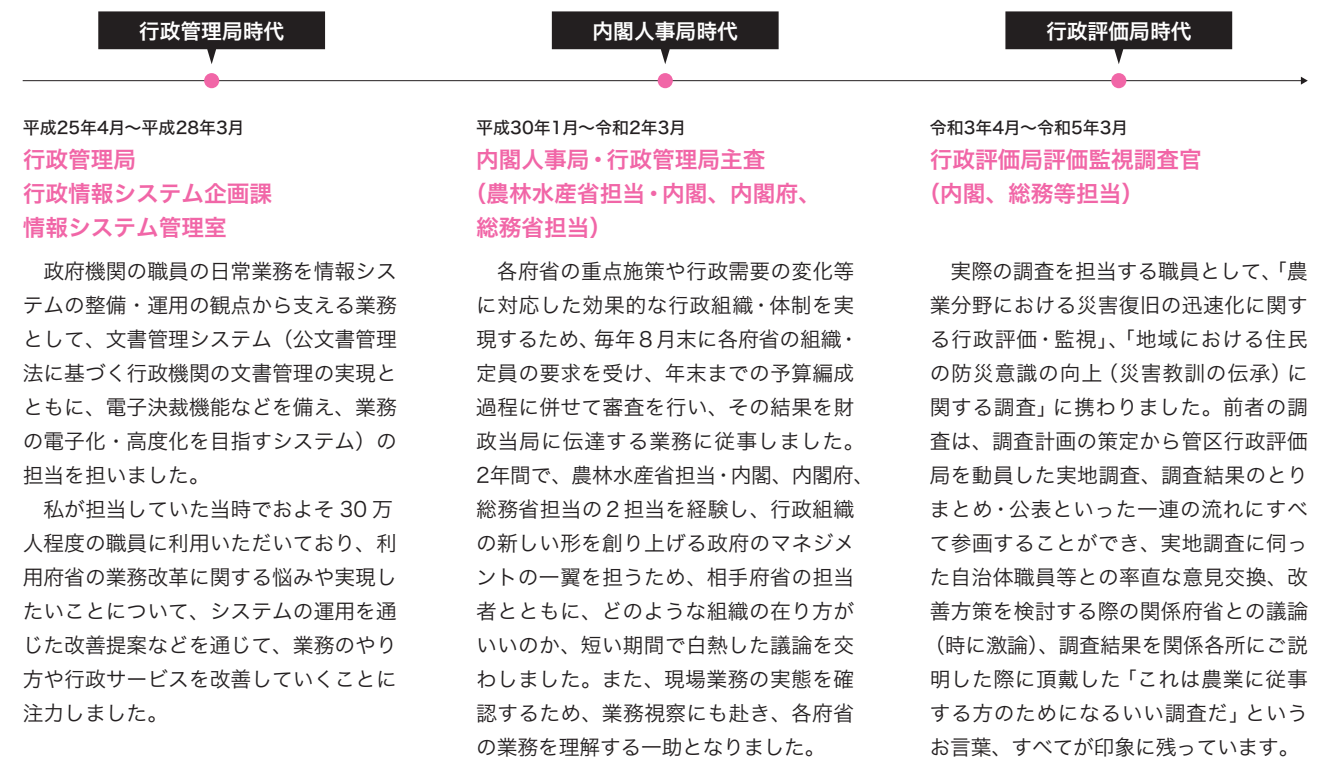
とある1週間

- 月** 局の幹部が集う週一度の会議運営後、A調査の今後の進め方について、調査担当室と議論。
- 火** 公表を控えている行政相談の案件について、省幹部へのご説明日程の調整。その後、B調査の実施要員の調整について、管区へ依頼。
- 水** C調査の進捗について、担当室から局長への報告に同席。終了後、ご指摘への返し方について担当室へ助言。
- 木** 管区から提案のあった業務改善案について、Web会議で趣旨の確認・今後の進め方の頭合わせ。こどもの保育園お迎えのため、夕方で勤務終了。
- 金** 各課室の業務の進捗状況を（雑談混じりに）確認し、必要があればネジの巻き直し。聴取結果を課内で共有し、翌週以降の業務のシミュレーション。



先輩職員へのご相談

CAREER PATH



MESSAGE

行政管理 行政評価 統計

行政の変革（課題発見・解決）へ

行政管理局主査
行政運営イノベーション担当

高原 旭 TAKAHARA Asahi

平成26年入省

共創アプローチによる行政の変革

少子高齢化やデジタル技術の進展など変化が激しい現代では、行政も日々変化が求められます。複雑化した社会で行政が変革に取り組むには、本質的な課題を発見するのが難しく、新たな課題発見手法の学びと実践が必要です。

行政管理局では、行政全体の業務・サービスの変革を推進するため、自らプロジェクトに取り組んだり、他機関を支援したりしています。

私の担当の一つの法案作成業務の効率化・ミス防止を目指すプロジェクトでは、各府省の担当者とコミュニティを立ち上げ、ワークショップを通じて課題を掘り下げたところ、経験者の知見の継承が大きな課題の一つだと分かりました。そのため、コミュニティメンバーで、経験者の知識・コツを発信するオンライン座談会を開催したり、ナレッジ共有のためのオンラインプラットフォーム構築に取り組んだりしています。現場の関係者と協働して課題や解決策を考える「共創アプローチ」の実践は、新たな試みの一つです。

学びと挑戦（キャッチ&トライ）の連続

私が経験してきた行政管理局や行政評価局の仕事は、変革の支援や調査・評価を担当する業務・サービスに関する情報をインプットし、それらの課題発見・解決にアプローチする点が共通しています。

現場の課題や声を拾うのが重要な行政管理・評価分野では、実際に現場へ出向いてきた若手にプレゼンなどの活躍の場が得やすいと感じます。私自身、局長やよりハイレベルの幹部へ、自分で論点整理し作成した資料で現場の課題を説明し、意見を交わす機会が何度もありました。

仕事の幅も広く、最近では、国際機関から登壇者を招いたシンポジウムの企画運営、行政 DX に関する外国政府往訪・意見交換などの国際業務や、変革の支援を地方機関と連携して新たに全国展開を図る取組の企画も担当しています。

キャリアパスを通じて、常に新たなことを学び、挑戦しながら、課題発見・解決力というどこでも生きるスキルを磨き続けられるのは、大きな魅力だと感じています。



コミュニティでのワークショップ



外国政府への出張・意見交換後の写真

Q これまで携わった仕事で 達成感があった仕事は何ですか？

九州管区行政評価局で行政相談を担当していたとき「離婚に際して作成することがある行政手続上の書類の中に当事者の住所が必要となるものがあるが、DVを起因とした離婚でその書類を作成することにより住所が相手方に知られるおそれから、手続の利用自体を諦めざるを得なかった」という相談を受けました。

自分なりに制度や関係機関の現場での運用実態を取材したところ、ある法律の規定が課題となって支障が生じていることが分かりました。この取材結果についてレポートを作成したところ、総務省本省経由で関係府省に情報が共有され、その後の法改正案に対応が盛り込まれるまでになりました。相談者の方からは、まさか自分の相談から法改正にまでつながるとはと喜んでいただきました。

自分が現場で発見した課題が場合によっては国レベルの変革にもつながるというボトムアップとダイナミズムの共存から得られるやりがいは、総務省ならではの魅力だと感じます。

多様なフィールドで 行政改善に携わる

政策統括官（統計制度担当）室
分析審査支援担当主査

三好 なみ

MIYOSHI Nami

平成26年入省

活躍の幅が広い統計の業務

政策統括官室は、統計行政の司令塔機能を担っています。

「統計行政＝理系業務」の印象があるかと思いますが、業務内容は様々です。正確な統計作成にはルールが必要であり、正しい法令理解が必要なため、制度担当では法学部の知識が役立ちますし、行政機関から申請される統計の審査を行う担当では、膨大な資料に目を通すため、文学部の文章力が生かされると思います。また、各府省の重要な統計は、作成方法や目的が適切か、課題の審議を行います。その際、経済統計や国民経済計算は経済学部の知識が、産業統計は農学部の知識が役立ちます。さらに、作成した統計は国民にとって理解しやすく活用しやすい必要があります。政府統計の窓口構築や広報も適切に行う必要があります。最近統計教育の充実も図られており、こういった業務は DX 系の学部や教育学部、デザイン系の学部の知識が役立つと思います。統計行政は、どんな方にも活躍の機会がある仕事だと思います。

総務省ならではの魅力

総務省は様々なフィールドに身を投じ、多様な目線や価値観を学びながら、地域、日本のために活躍できる職場だと思います。私はこれまで、行政相談センター、管区行政評価局、総務省本省で勤務しました。地方勤務では、実際に現場に出て、現地を見ながらその地域に住む方々からの行政に対する生の御意見を伺い、政策の改善策を見出す作業は、政策立案の下支えとなる知識・経験を得るとともに現場仕事の魅力ややりがいを感じる良い機会となりました。また本省では、統計部局に勤務し、国会対応、法改正、審議会運営等を経験し、日本の中枢として働く大変さや醍醐味を感じました。これら

の経験は、多くの人々との出会いを生み、今まで気付かなかった日本の良さを認知することに繋がるとともに、目の前の課題を俯瞰して考える際の財産になっています。このように、様々な場所で貴重な経験をしながら日本の未来を考えることができるのは総務省の魅力だと思います。

Q 志望した理由は何ですか？

暮らしに影響を与え、後世に残る仕事であること、政策形成の過程に関心があること、家庭を持った後も継続でき、就職後の選択肢が多いこと等から総合的に判断し国家公務員を志望しました。特に所掌範囲が広く、生活に密着していること、消防は人々の安心を見守り、統計は政策の羅針盤となり、自治は多様な地域の財政を支えていること等から陰の立役者的存在である総務省に魅力を感じました。

Q あなたが実践する働き方改革

報告や依頼案件、会議の準備がある日は出勤し、推計作業や研究論文の執筆はテレワークとするなど業務内容に応じて効率の良い環境を選択しています。さらに勤務形態を独身時代は遅出、育児中は早出にライフステージによって変更しましたが、違う業種の仕事を経験できライフバランスを保つだけでなくワーク面でも多様な経験ができました。また、育児休業は思い切って長期休暇を取得し、米国で家事・育児をしながら休日は語学学校に通い自己研鑽に努めました。



休日は家族と博物館巡り



語学学校の様子

「地方のために」を 実現する場所

自治行政局公務員部公務員課給与能率推進室

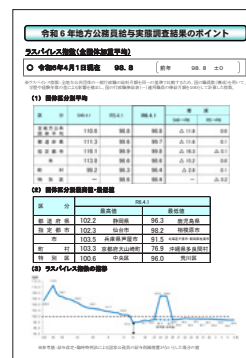
水野 さやか MIZUNO Sayaka

平成31年入省

給与の実態を知るために

私は現在、「地方公務員給与実態調査」という調査を担当しています。この調査は、全国に約280万人いる地方公務員の給与等の実態について調査するもので、例えば、年齢別の職員数、職種別の給料月額、年齢別の給料月額、手当の額、採用者数・退職者数など、様々な内容を調査します。調査結果は、公表するとともに、制度の基礎資料になるため、重要なものです。そのため、内容には正確性が求められます。正確な調査の実施や分析を行うためには、制度や、現在の地方公務員を巡る状況の理解が大切なので、勉強の毎日です。

私が担当した令和6年の調査では、制度改正のため、ここ数年の間では大きな調査表の改正がありました。制度改正の内容を踏まえて正しく調査することには困難もありましたが、そのような苦労を経て公表日を迎えた時には大きな達成感がありました。調査結果は報道発表されるなど、社会に対して影響の大きい業務を担当していると感じます。



報道発表資料

地方に対する思いを大切に

総務省の魅力は、職員が地方に対する思いを持っていることだと考えています。その思いは、自分自身が地方公共団体に赴任した経験や、地方公共団体から派遣された職員と一緒に働く経験によって、大きく、強くなるのだと思います。私も、自分が赴任した岐阜県や、これまで一緒に働いてきた方を思い浮かべ、地方のためにはどうするべきか考えることを大切にしています。

私の現在の職場には、一般職採用の職員の他に、総合職採用の職員、他省庁から出向で来ている職員、地方公共団体から派遣されている職員など、様々な背景の方がいます。皆が活躍し、活気のある職場です。様々な背景の方と働くことで新たな発見も多くあり、良い刺激になっています。

入省前は堅そうな職場だというイメージを持っていましたが、業務にしっかり取り組む一方で、同期や職場の方と遊んだり飲みに行ったりすることもあります。入省から年数を重ねるにつれ、楽しい思い出も増えています。



岐阜県赴任時に訪れたアクティビティで

Q

総務省を志望した理由は何ですか？

私が高校生の頃、地方の人口減少問題が大きく取り上げられ、母が東北地方の出身だったこともあり、人々がこれから先も地方で暮らし続けるにはどうすればいいのか？と思ったことをきっかけに、地方のために働きたいと思うようになりました。総務省であれば、一つの地方公共団体のためだけでなく、同じような課題を抱える全国の地方公共団体のためにも働けるのではないかと考えたことが、総務省を志望した理由です。

私には省庁で働いている知り合いがおらず、働くイメージができず不安な気持ちがありましたが、採用説明会などで先輩職員と話した際に、普段の仕事の様子などを教えてもらったことで不安が解消されました。何よりも、自身の仕事を詳しく、熱心に教えてくださった姿に感銘を受け、私も総務省で働いてみたいという気持ちが固まりました。



帰省の度に初心を思い出します

とある1週間

- 月** 地方公共団体の担当者へのヒアリングの準備をします。
- 火** ヒアリング当日。担当者の方から実情や課題などを伺うことができました。
- 水** 集計した調査結果の分析をします。背景をよく考えることが大切です。
- 木** 分析結果を上司に説明するための資料を作成します。
- 金** 分析結果を上司に説明します。上司からの助言で新たな発見がありました。

CAREER PATH

自治行政局時代

平成31年4月～令和2年3年

自治行政局公務員部公務員課
給与能率推進室

地方公共団体の職員数について調査する「地方公共団体定員管理調査」を担当しました。採用1年目から担当者として業務を任せてもらい、公表という最終目標に向けて、調査を依頼し、集計・分析し、公表資料を作成するという一連の仕事を、周りの方に助けていただきながら、やり遂げたことは自信になりました。また、職員数を通して地方行政を巡る状況を知り、改めて地方自治分野はおもしろいと感じました。定員管理について検討する研究会の開催にも携わり、学識経験者の方などによる議論の場に立ち会えたことも良い経験です。

岐阜県時代

令和2年4月～令和4年3月

岐阜県清流の国推進部市町村課

市町村担当者から寄せられた制度に関する質問への対応が印象深いです。特に、非常勤の地方公務員である会計年度任用職員制度が施行された際には、大きな制度改正だったため、市町村の現場で起きている色々な事案に対し、制度の背景や解釈をよく考えた上で助言することは難しいと思うこともありましたが、新しい制度がどのように活用されているのか、どのようなことが課題になっているのかを、市町村との距離が近い県の職員だからこそ知ることができたと思います。地方公務員制度を担当する今の職場でも、この時の経験が役立っています。

消防庁時代

令和4年4月～令和6年3月

消防庁総務課

消防庁総務課で契約を担当しました。一つの契約で数億円単位の大規模な契約などもあり、緊張感がありましたが、自分が契約を担当した消防防災に関する各種事業が行われることで、国民の安心安全な生活の実現に少しでも貢献することができたのではないかと思います。総務担当の仕事は、表に出ない、「縁の下での力持ち」のような仕事が多いですが、一緒に働く仲間である消防庁職員の業務が円滑に進むために働くことは、とてもやりがいを感じました。能登半島地震発生時には、消防庁職員が一丸となり対応にあたったことが印象深いです。

MESSAGE

地方自治 消防

地方の想いを 政策に

自治財政局交付税課企画係長

廣邊 健太郎

HIROBE Kentaro

平成28年入省

財政から地方を支える仕事

私が所属する自治財政局交付税課では、地方交付税のうち、普通交付税の企画・立案を行っています。地方交付税とは、誤解を恐れずに簡単なイメージで申し上げますと、必要な行政サービスを行うための財源を自前の収入だけでは賄えない地方自治体に対して、国がその財源不足を補うよう交付するものです。

警察、消防、道路、港湾、教育、生活保護、高齢者福祉、子育て支援、地域振興などなど、地方自治体は様々な行政サービスを担っています。それらの経費を客観的な指標と算式で見積もることが主たる業務になります。全ての意見を取り入れるとお金が足りなくなりまし、逆に過小に見積もると地方の取組みに支障が出ます。単純に見積もるだけではなく、例えばその時々物価や税収動向も考慮するなど難しさもありますが、財源保障と財源調整を通じて自治体の課題に対応できるような政策を作ることができる、大変やりがいのある仕事です。



新規の財政措置について打ち合わせ

人との出会いがある場所

官庁訪問の時、ある先輩から「総務省の魅力は短期間にたくさんの出会いがあること」だと聞き、面白そうだなと思いました。実際、総務省では、都道府県や市役所などの地方自治体から派遣されている職員や、他省庁から出向して来ている方と共に働きます。また、総務省で採用されても、地方自治体や他省庁に勤務する機会もあります。

国の仕事は大変な場面もあります。史上初のことにも対応しなければいけません。しかし、総務省には尊敬できる上司、同僚がたくさんいます。壁にぶつかった時、相談できる環境は抜群です。一人ではできないことも仲間がいれば前に進めます。私もたくさん助けてもらいました。

今、このパンフレットを手にしている皆さんは、何をしたいのか悩んでいる方も多いのではないのでしょうか。総務省は、様々な「人」との出会いにあふれています。地方公務員も国家公務員も経験できます。一緒に地方自治体を支え、日本を支える仕事をしましょう。



2年目最終日に同僚と。笑顔で飛び立ちました。

入省後、成長したと思うことは？

突発的な事案が起きた時への対応です。今でも想定外のことが起きた時はまず焦ってしまいます。しかし、最終的にどのような形を目指すのかということを整理し、そこに至るにはどうしたらよいか逆算して取り組むようにしています。

海底火山噴火により各地の海岸に大量の軽石が漂着して困っている、解決には何らか追加の財政措置を講じる必要があるのではないか、と問題になったことがありました。全く同じ前例というのはありませんでしたので、現状どうなっているのか、参考になる例はないのか、他省庁はどのような事業を用意するのか、自治体ではどのようなニーズがあるのかなど考えることはたくさんあります。それらについて他省庁や自治体の事情をお伺いして整理し、新たな措置を創設しました。そういった経験を重ねることで成長していけると思います。



新規の措置を考える時こそ、参考事例の勉強が重要です。



家族との時間が大切ですのでメリハリを意識します。

CAREER PATH

大臣官房時代

平成28年4月～平成29年3月

大臣官房秘書課

入省1年目には、人事担当課である秘書課にて、総務省の人件費予算要求・予算執行を担当し、大きな金額の調整に携わりました。総務省の機構・定員・級別定数との整合、財務省との折衝など、省内外とやりとりして、上司・同僚に助けられながら予算編成しました。

右も左もわからない1年生でしたので、当然ながら仕事は怖かったです。自分で数字を積み上げて外部へ説明するというのは、新社会人には難しくも刺激的でした。このときの「納得できる説明を心がける」という姿勢は、今にもつながる基礎となっています。

宮崎県時代

平成30年4月～令和元年9月

宮崎県総務部市町村課

入省3年目には宮崎県庁に赴任しました。期待と不安を胸に知り合いゼロの土地へ。

自治体勤務は、総務省で地方を支える仕事をする場合、非常に重要な経験となるものです。県庁では、市町村税や地方交付税に関して、国と市町村との間の連絡調整業務に従事しました。地方自治の最前線である市町村との距離が近く、自治体が実際に感じていることなど、その想いを肌で感じることができました。

業務の経験だけでなく、宮崎県庁でできた仲間、思い出は、公私ともに自分を支えてくれる存在になっています。

自治財政局時代

令和元年10月～令和4年3月

自治財政局財政課

県庁から本省へ復帰すると、地方財政を総括する財政課にて、特別交付税に関する業務に従事しました。特別交付税とは、災害対策経費など特別な事業に対して交付するもので、自治体の財政運営上重要な政策です。

令和元年度には房総半島台風や東日本台風などの災害が頻発する中、年度末に新型コロナウイルスが流行しはじめました。災害対策がある中大変でしたが、政府のコロナ緊急対応策を踏まえ、地方負担が生じる部分について急遽特別交付税措置を創設し、財政面から自治体の初動対応を支えました。

とある1週間

- 月 新規の財政措置に関する会議に同席。算定方法を検討します。
- 火 翌日の国会関係の資料作成。他部署と調整しながら迅速な対応を心がけます。
- 水 国会議員事務所から交付税に関する質問対応。先方に丁寧に説明します。
- 木 課題となっている案件について資料作成の上、対応案を上司に相談。自分では気づけない点を助言してもらい、案を磨きます。
- 金 自治体の担当者の方へ電話説明。地方の協力なしに仕事は成り立ちません。

MESSAGE

地方自治 消防

地域を支える身近な税

自治税務局都道府県税課法制第一係長

花堂 在啓 HANADO Akitaka

平成26年入省

これからの社会で求められる税のあり方

現在、私は自動車税の担当として、主に毎年行われる税制改正のための検討やそれに合わせた実務上の大枠の整理などの業務をしています。自動車税は、保有時に毎年かかる種別割と取得時にかかる環境性能割から構成されており、毎年1.7兆円ほどの税収があります。また、人口一人当たりの税収が地方部で比較的高い傾向にあり、地方のインフラ整備等のための貴重な財源となっています。一方で、非常に多くのユーザーがいることから、税制の検討に当たっては、ユーザーの負担感にも配慮する必要があるほか、国内で約558万人の雇用を支える自動車産業の産業政策の観点や、2050年カーボンニュートラル目標の達成に資するため環境性能のよい自動車の普及を図る観点など、非常に多くの観点から議論が必要です。また、税制改正は与党や国会での議論を経て最終的に決定されます。忙しいときもありますが、それだけにやりがいがあり、日々楽しく業務に取り組んでいます。

印象深かった業務

新型コロナウイルス感染症が流行していた当時に検討した地方譲与税の特例が最も印象的でした。地方譲与税は国税収入の一部を地方に譲与する仕組みで、その一つに航空機燃料譲与税があります。ジェット燃料に課される航空機燃料税の一部を地方に譲与するもので、主な納税義務者は航空公司です。当時、コロナの影響による航空需要の低迷から、航空公司は極めて厳しい経営状況にありました。こうした背景から、特例によって航空機燃料税の税率を引き下げることとなり、その影響で、地方へ譲与される金額を確定させるための仕組みを作る必要がありました。通常よりも短期間で検討を

する必要があり、一から法令の関係を調べたり、関係する省内の部署や他省庁と調整をしたりするのは大変でしたが、検討の過程では主体的に自分のアイデアを反映させることができ、運用可能なものとして形になった時の達成感は何物にも代えがたいものでした。



部下の業務のチェックも大切な仕事です

Q 自治体での赴任経験が 総務省の業務に活かした経験はありますか？

総務省は制度を所管していますが、実際に住民との窓口として制度を運用するのは自治体の職員の皆様です。現場の方々が運用面でどのようなことを気にされているのかは、本省の執務室にいただけでは理解することができません。そのため、現場の感覚に直接触れることができる自治体への赴任は非常に重要な意味を持っていると感じています。また、本省にも全国から赴任してくる自治体の職員の方がたくさんいます。現場での運用や取扱いについて、わからないことや困ったことがある時に気軽に相談ができるようなつながりはとても貴重なものだと感じています。その他にも、仕事だけでなくプライベートでも飲み会を開くようなつながりも続いています。地方を支えるために、全国の仲間と協力して取り組んでいくのが総務省の業務の醍醐味の一つだと思います。

地域の安全を支える

消防庁国民保護・防災部防災課地域防災室

林 里保 HAYASHI Riho

令和2年入省

消防の仕事

消防庁は、救急、救助、火災予防、地域防災などの消防行政全般を担っており、その中でも私が所属する地域防災室では、消防団や自主防災組織等に関する業務を行っています。

能登半島地震をはじめとする近年の災害において、消防団は、自らも被災しながら、地域住民の命を守るため、消火・救助活動や傷病者の搬送、避難誘導などの懸命な活動を展開しました。

今後、大規模災害の発生が危惧されている中、地域に密着した消防団の力が重要になりますが、依然として消防団員数の減少が続いている厳しい状況であることから、団員確保を含めた消防団の充実強化を図ることが重要となっています。

このため、地域防災室では、入団促進に向けた広報の充実や消防団員の処遇改善、装備の充実や活動環境の整備推進な



消防署見学ではしご車体験をした際の1枚

ど、様々な施策を通じて、消防団の更なる充実強化に取り組んでいます。

総務省だから経験できること

これまで1～2年で部署異動になっており、その度に仕事内容を一から覚えることは大変でしたが、一方で、日々新しい業務へ挑戦する度に新たな視点が増えていくことを実感しています。経験できる業務が幅広くあることは総務省の地方自治分野ならではの魅力だと感じています。

また、総務省では入省して2年経つと県庁で働く機会があります。私は兵庫県へ2年間赴任しましたが、地方公務員の立場として実際に働くことで、地方の現状を、身をもって体験できるのも、魅力の一つだと思います。また、県でお世話になった方々とは未だに交流が続いており、これまで縁もゆかりもなかった地域でしたが、私にとって「第2のふるさと」と呼べるくらいとても大切な場所になりました。

Q 職場の雰囲気は？

私が所属する消防庁では、都道府県、市町村、消防本部、他省庁等から派遣された多くの職員と一緒に仕事をしており、非常に活気にあふれた職場となっています。

特に、消防本部から来られている職員の方々は、現場をよく知っているため、その実務経験を頼りにしつつ、様々な意見を聞きながら業務を進めることができます。

仕事内容はもちろんですが、誰と一緒に働くのかということも重要なことだと思います。みなさんも是非、活気あふれるこの職場と一緒に働いてみませんか。

若手職員対談

若手職員4名に、総務省を目指したきっかけや実際に働いてみて感じたことを語っていただきました。

——現在は、どんなお仕事に携わっていますか。

片岡：労働力調査の結果公表業務を担当しています。毎月の調査結果の各種公表資料の作成や、結果データに関する問合せ対応などが主な業務です。

小島：管区行政評価局で実施している地域計画調査及び情報収集をより良いものにするために、各管区に対して支援・アドバイス等を行っています。また、局内の調整業務にも携わっており、幅広く業務を行っています。

池本：主に、消防関係者の表彰に関する業務に携わっています。普段は審査等の事務作業を行うことが多いですが、年に数回行われる表彰式の運営を行う際には、受賞者の方の喜ぶ顔を直接見ることができ、やりがいを感じています。

長谷川：現在は主に局の窓口として、他の部局から来る連絡を局内の適切な箇所に展開する情報ハブのようなお仕事をしています。省内は常日頃から様々な情報が飛び交っているので、必要な情報を見極めることを意識しています。

——総務省を選んだ決め手を教えてください。

小島：私は、学生時代、将来の進路を特定の分野に絞られず、様々な進路を模索していました。だからこそ、一つの行政分野に縛られず、様々な国の行政に関与できる評価局の業務に魅力を感じて、総務省を選びました。

長谷川：安心安全なインターネット環境を実現するにはどうすればよいかと考えている中、政策という唯一無二のツールを用いて環境づくりに貢献できることに魅力を感じ、総務省を選びました。

池本：私は、地方赴任等を通して地方の視点を持ちながら国全体の役に立てることに魅力を感じ入省を決めました。説明会で聞いた、先輩職員の地方に対する熱い想いがとても印象に残っています。また、説明会での職員の方の優しい雰囲気も決め手の一つです。

片岡：私も職員の方の雰囲気が決め手の一つでした。各省庁の説明会に参加した中でも総務省は、職員の方々の気さくで温かい雰囲気が印象的でした。働きやすそうな職場だと感じたのが、決め手として大きかったです。

長谷川：実際に説明会に参加してみると、職員の方の雰囲気がよくわかりますよね。少しでも興味がある方は、ぜひ説明会に参加してみてください。

——周りの職員や職場の雰囲気はどうか？

池本：明るく優しい方が多い印象です。何かわからないことがあれば、先輩や上司にすぐに相談できる雰囲気なので、業務に関し

て不安を感じることはないです。

片岡：仕事上初歩的なことや些細なことでも丁寧に教えてくださり、助けていただいています。業務は淡々と進めつつも、時折雑談も交えたり、穏やかな雰囲気だなと思います。

小島：相談しやすい先輩が多いですよ！入省前は、国家公務員といえば、黙々と事務作業をしているイメージがありましたが、雑談も含めてコミュニケーションをとる機会が多く、風通しが良い職場だなと感じています。

長谷川：若手であっても意見を言いやすい雰囲気があるなと思います。また、突然忙しくなるときもあるのですが、こんな状況でもピリつくのではなく、皆で協力して乗り切ろう！という空気があり、居心地が良い職場だなと思います！

——入省前業務に対して不安に感じていたことはありましたか。

小島：入省前は、職場の人間関係や業務についていけるかなど、全てに不安を感じていました。それでも、頼りになる先輩方や同期に恵まれたことで、今では不安もなく、楽しく働くことができます！

片岡：残業が多く忙しいイメージがあり少し不安でした。実際はテレワークやフレックスなど働き方も柔軟ですし、定時退勤や休暇取得も上司や周りの方が積極的に呼びかけてくださるので、働きやすい職場だと感じています。

池本：スケールの大きい仕事だからこそ、なかなかイメージが掴めず不安でしたが、入省後すぐに行われる宿泊研修のおかげで、同期と交流を行いながら地方自治の知識を身に付けることができました。

長谷川：入省当時は所管法令に関する知識がなく、周囲の議論についていけるのかと思っていましたが、入省後の研修も手厚く、さらには身近に担当者や立案者もいるのでとても勉強の機会に恵まれています。



宿泊研修の様様



統計局総計調査部国勢統計課
労働力人口統計室審査発表第一係
片岡 千沙乃
KATAOKA Chisano
令和6年入省



行政評価局総務課
地方業務室
小島 蒼
KOJIMA Aoi
令和6年入省



消防庁総務課
池本 有希
IKEMOTO Yuki
令和6年入省



サイバーセキュリティ統括官付
参事官付
長谷川 桂司
HASEGAWA Keiji
令和6年入省

若手職員の1日

消費者保護ルールについて考える

9:30

登庁

出勤の電車では、その日のスケジュールを頭に浮かべ、やるべきことを整理しています。係員としての仕事は、特に、細かな業務を同時並行で進めなくてはならない場面が多く、漏れなく対応するためにもタスク管理が肝心です。一日の流れをイメージし、あらかじめ優先順位を決めておくことで、スムーズに業務を開始することができます。



11:00

問い合わせ対応

電気通信事業者や各地の総合通信局等からの問合せに対応するために、省令やガイドラインを参照します。根拠となる資料や条文をもとに回答を作成した後は、上司に確認していただきます。法律の読み方や解釈など、当初は難しく感じていましたが、周りの方々のお力添えもあり、少しずつ分かるようになってきました。



12:00

ランチタイム

ランチは同期と一緒に食べています。普段は省内のコンビニで済ませてしまいましたが、余裕があれば他省庁の食堂に行ったり、ご褒美として銀座や有楽町にランチに出かけることもあります。この日は、銀座までとんかつを食べに行きました。同期とゆっくりおしゃべりできる昼休みの時間が毎日の楽しみです。



14:30

室内の打ち合わせ

当室では、電気通信サービスに係る苦情相談やトラブル事例の集計をしており、週に一回、寄せられた苦情データをもとに室内打ち合わせを実施しています。事案一つ一つに目を通した上で、電気通信事業者へ情報提供や、事実関係の調査を求めることもあります。消費者トラブルの現状を正しく認識し、室内の意識合わせを行うことは、今後必要な制度を検討していく上で重要な土台となります。



16:00

事業者との意見交換

電気通信事業者と定例の意見交換を行っています。利用者と事業者の間の情報格差や、勧誘時や解約時におけるトラブルといった課題に対して、どのようにアプローチしていくか、活発な議論が行われます。会議中は、基本的には、議事録作成のためにメモ取りに専念しています。専門用語が話題に上がったり、技術的な話に発展したりすることもあるため、事前・事後勉強が欠かせません。



19:00

退庁

好きなバンドやミュージシャンのライブを見に行くことが多いです。終業後に楽しみな予定があると、日中の業務にもモチベーションを持って取り組むことができますし、日々の活力にも繋がります。明日も頑張ります！



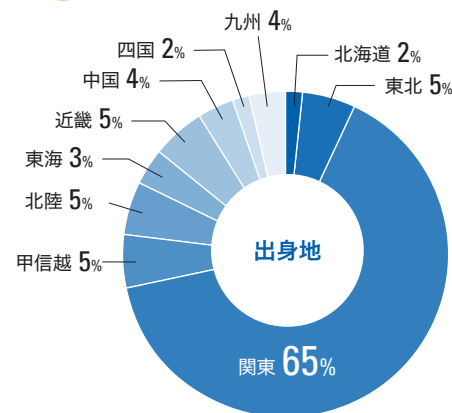
総合通信基盤局電気通信事業部
料金サービス課消費者契約適正化推進室

伊藤 佳 ITO Kei
令和6年入省

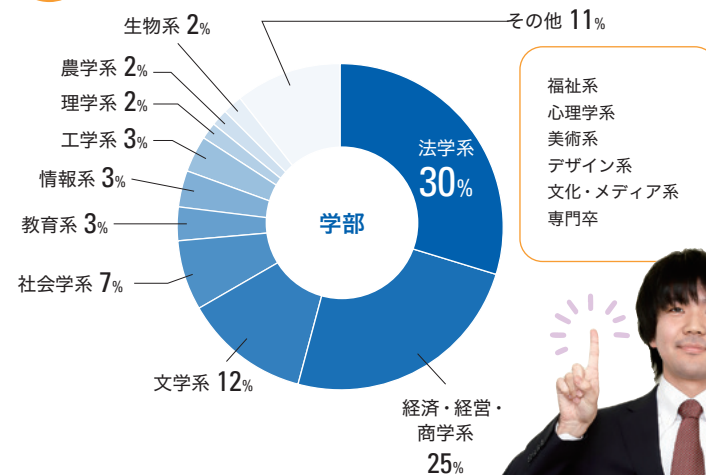
MESSAGE

私は現在、消費者行政という分野でルール策定や履行に携わっています。利用者への影響が大きく、成果が目に見えるという点で、とてもやりがいのある仕事だと実感しています。もし社会や生活に関わる仕事に興味がありましたら、ぜひ総務省へ足を運んでみてください！

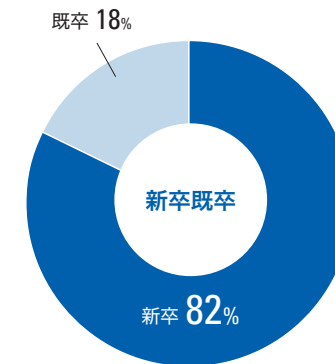
Q1 出身地を教えてください



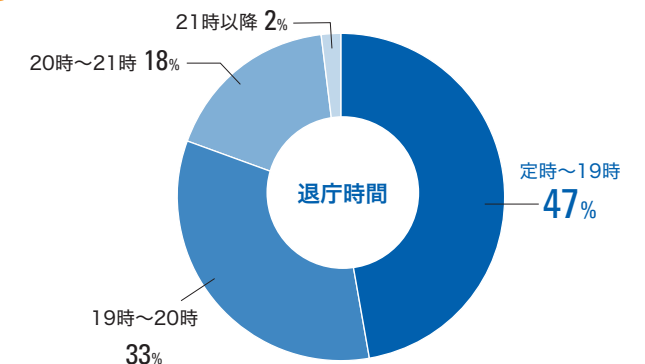
Q2 大学の学部を教えてください



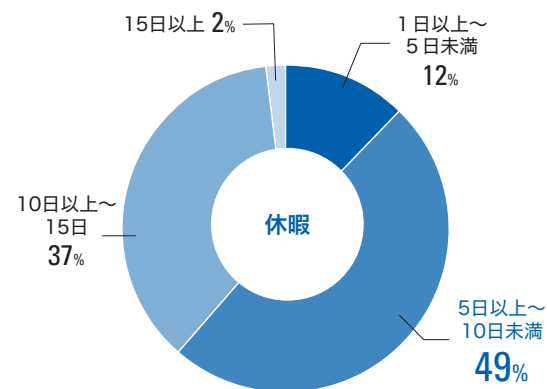
Q3 新卒ですか？ 既卒ですか？



Q4 退庁時間の平均を教えてください。



Q5 休暇取得数はどのくらいですか？

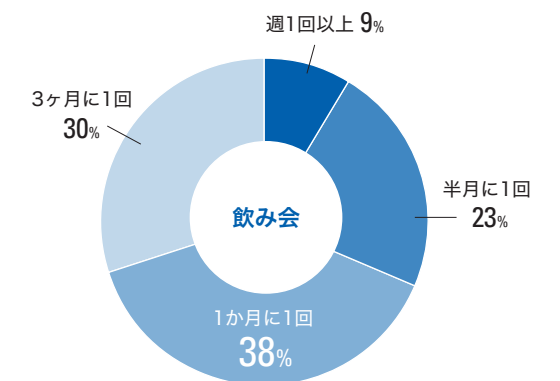


若手職員
入省1年目の職員（令和6年度）

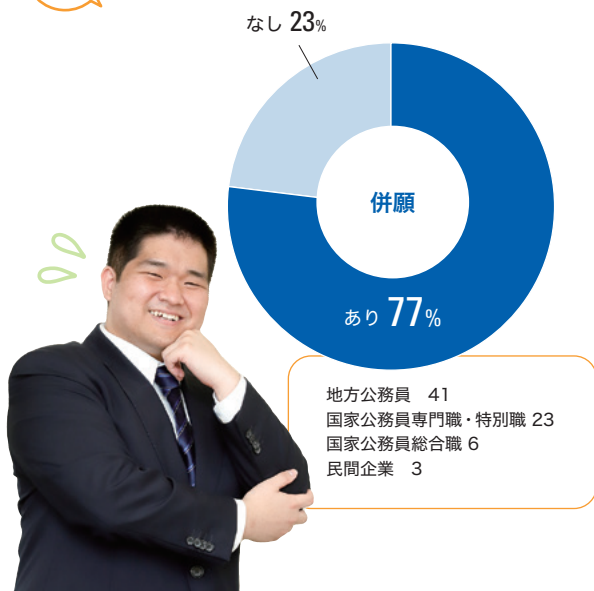
アンケート

入省）に聞いてみました！

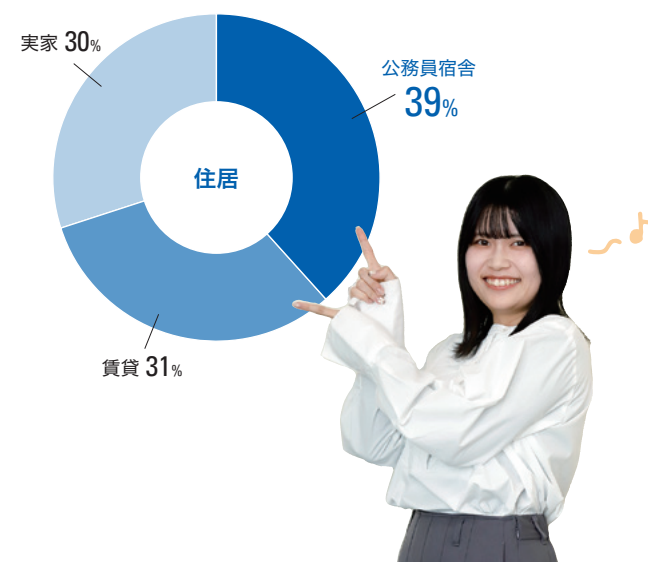
Q6 会社の同僚や同期と飲み会や食事に行く頻度はどれくらいですか？



Q7 併願先はありましたか？



Q8 住居形態を教えてください。



Q9 総務省を選んだ決め手を教えてください。

- 情報通信技術に、あらゆる社会課題を解決できる可能性を感じたからです。（総合通信基盤局）
- 「行政のより良い形ってなんだろう」を追求することができる仕事だと感じたからです。（行政評価局）
- 官庁訪問で出会った職員の皆さんがとても魅力的で、一緒に働きたいと思ったからです。（自治行政局）
- 地元だけでなく全国の自治体を活性化したい仕事をしたかったからです。（消防庁）
- 公共性が高く、また、統計は重要な役割を持つと思ったからです。（統計局）
- 日々変化する情報通信分野の諸課題に、国の広い視点から携わりたいと思ったからです。（大臣官房）

Q10 総務省の魅力は？

- 本当に様々な分野の業務があるため、自分のやりがいも見つけやすいです。（大臣官房）
- 職員同士助け合いながら、ワンチームとなって仕事や課題に取り組めることです。（自治税務局）
- 本省に限らず、地方など様々なフィールドでの勤務により視野を広げられる点です。（大臣官房）
- 制度官庁として、各府省とともに施策の方向性を導いていくところが魅力だと感じます。（政策統括官（統計制度担当）付）
- 最先端の技術に携われることと、穏やかな雰囲気です。（総合通信基盤局）
- 一つの分野を極めるのではなく、オールラウンダーとして行政を俯瞰できることです。（行政評価局）



九州総合通信局無線通信部陸上課

大隈 拓郎 OKUMA Takuro
令和2年入省



趣味のゴルフを阿蘇の
大自然の中で

現場で行政を担う立場として

九州をより魅力ある場所に

私が所属する九州総合通信局陸上課では、テレビやラジオを除く陸上で使用するほぼ全ての無線局の許認可業務を行っており、私はその中でも携帯電話の基地局など電気通信業務用に開設する無線局の免許・検査業務を担当しております。

TSMCの進出で注目を集めている熊本ですが、九州は日本のICT・製造業のハブとして重要性を増す一方で、自然災害や地理的特性から、通信インフラの整備やICT利活用が地域の課題解決に直結しています。

様々な地域事情を持つ九州の地にて、誰もが安全・快適に利用できる通信サービスの確保のため、現場で行政を担う立場として日々業務に取り組んでいます。

進化するICT

ICTの進化は著しく、IoT・AI等の革新的な技術が次々と開発され、社会のあらゆる分野に浸透しています。また、地上での通信に加え、海・空・宇宙といった非地上系ネットワーク（NTN）の構築により、どんな場所においてもシームレスに通信サービスを利用することが可能となる時代が到来しようとしています。ICT分野を軸に幅広い仕事に携わることができるのは、総務省の1つの魅力だと思います。

中でも、地方局では現場で行政を担う立場として最新技術の動向も取り入れながら、地域の実情を把握しニーズに応えられるよう考える日々は私の刺激になっています。

少しでも興味を持たれた方は、ぜひ総務省に足を運んでみてください。

身近にある無線通信技術

無線局許認可の現場

東北総合通信局は総務省の出先機関であり、東北地方における通信業務を担当し、無線局の許認可や監視、地域における通信インフラの整備を行っています。

私はその中でも、船舶や航空機の無線局の許認可業務を担当しています。船舶や航空機が通信を行うために必要な無線局の開設や変更に関する申請について、国際基準や関連する国内法令に基づいて審査を行っています。また、無線局が適切に運用されているかを定期的に確認する検査等も行っています。船舶や航空機の無線通信は、単なる情報のやり取りにとどまらず、人命を守るための重要な役割を果たしており、責任感をもって日々業務に取り組んでいます。

技術の進化を肌で感じること

スマートフォンやテレビ放送など、日常生活に溶け込み私たちが意識せず使っている通信技術はたくさんあります。これらの情報通信技術は日々進化を続けており、新たな技術が次々に登場しています。その一方で、これらの新技術に対応するための法制度や規制は、必ずしもその進化に追いついていないとは限りません。技術革新を肌で感じながら、その最前線で制度整備に関わることができるということに、とてもやりがいを感じます。

また、総務省は無線通信のみならず非常に多岐にわたる分野を所掌しています。今自分が関心を持っている分野以外にも、新たに自分の強みを発揮できる分野に出会える機会があることも魅力の一つではないでしょうか。



東北総合通信局航空海上課

久岡 亜梨亜 HISAOKA Aria
令和3年入省



休日のカフェ巡り



出張先で食べた海鮮丼

現場の視点から紡ぐ、行政の変革

現場目線に立って

総務省の行政相談では、国民の方から国の行政に関する困りごとや要望等を受け付け、必要に応じて現地確認や関係機関への照会を行い、その解決を促す業務を行っています。また、個々の困りごとに対応する中で、背後にある制度やその運営方法に問題があれば、担当府省に改善を働きかけます。

近畿管区行政評価局は、全国にある行政相談の窓口の一つとして、国民や地域が抱える困りごとを担当府省に届ける架け橋としての役割を担っています。国の行政機関でありながら現場目線に立って現行制度や運営方法に課題がないかを探っていく面白さは他府省では味わえないものだと思います。

「当たり前」を疑う

総務省行政評価局は、業務の特性から、自らの業務改善や若い世代の意見を取り入れることにも柔軟であり、風通しの良い職場だと思います。

例えば、今年度、行政相談の機能を強化し、現場の課題をより把握するため、地方自治体の職員の方々から国の制度や運営方法に対する悩みや意見を募集する取組を先輩職員と共に提案し実施しました。また部署間の壁を越え、若手職員でチームを組み、行政運営改善調査のテーマ案を企画することにもチャレンジしています。

制度の改善を図るのはなかなか容易ではありませんが、まずは日々の業務から「当たり前」を疑い、改善を図っていくことが重要だと考えています。



中部管区行政評価局評価監視部評価監視官付

炭田 彩夏 SUMIDA Ayaka
令和4年入省



お昼はお弁当を食べてほっと一息



休日は観光をして土地勘を養います

中部の声を国へ届ける

現場目線で、生の声を聴く

私は現在、行政運営改善調査の業務に携わっています。調査を通して行政課題の実態を把握・分析し、改善方策を提示することで、各府省が抱える課題の解決を後押しすることを目指しています。

特に全国的な行政課題の改善のためには、本省評価局との連携が重要です。主に、本省が調査の設計や調査結果の取りまとめを行い、管区評価局が調査の実行部隊として各現場での情報収集を担います。

情報収集においては、施策を運営する関係機関の現場を訪問し、担当者から生の声を聴き取ることで、行政課題の実態を的確に把握します。関係機関の担当者や行政サービスを受ける国民にとって役立つ調査となるよう、現場目線での情報収集活動に日々励んでいます。

アクティブで学びの多い職場です

実際に行政運営改善調査に携わり、アクティブに活動し自由に議論できる環境に魅力を感じています。

改善に役立つ調査を実現するには、自分の足で現地に赴き、まだ不透明な現場の実態を明らかにすることが重要です。そのため、執務室での事前の情報収集に加え、現場を訪れ担当者へのヒアリングや現地確認などを行うことが多くあります。例えば森林に関する調査では、自治体の担当者や森林の中に入り現場を確認しながら話を伺いました。

現地での調査を通して新たな情報を得た後は、執務室に戻り調査チーム内で意見を共有しながら整理します。議論の中で新たな気づきを得ることも多く、自身の知見も少しずつ広がっている実感が毎日刺激的です。

近畿管区行政評価局総務行政相談部
首席行政相談官室行政相談官

竹内 慧 TAKEUCHI Kei
令和2年入省



近畿管区で出会った同僚と



阿久根市副市長
福島 浩
FUKUSHIMA Hiroshi
平成15年入省

CAREER PATH

- 平15. 4 総務省採用
大臣官房秘書課
16. 4 同 自治行政局自治政策課
17. 4 高知県企画振興都市町村合併支援室
19. 4 公営企業金融庫融資部融資第二課
20.10 地方公営企業等金融機構融資部審査室
21. 4 総務省自治財政局公営企業課公営企業経営企画室
交通事業係長（自治財政局公営企業課公営企業経営
企画室エネルギー事業係長併任）
22. 9 同 自治行政局地域自立応援課過疎対策企画係長
25. 4 同 自治行政局公務員部福利課企画係長
28. 4 木津川市政策監
31. 4 総務省消防庁国民保護・防災部防災課主幹
（国民保護・防災部防災課広域応援室主幹併任）
（国民保護・防災部防災課防災情報室主幹併任）
（国民保護・防災部防災課急応策室主幹併任）
令 3. 4 阿久根市政策監 兼 企画調整課長
5. 4 現職

日本の「たからのまち」のために

地方創生のリアルは現場にある

「庁舎等への再エネ導入に向けたプロジェクトに取り組んでほしい」阿久根市への着任直後に市長から示されたミッションです。「ゼロカーボンシティ」の実現に向け、市役所、市民交流センター等に太陽光パネル、蓄電池を設置するとともに、市役所を含む6施設を専用線で結び、電力の自給自足を図るというプロジェクトですが、「公民連携」という新たな手法を用いたこともあり、途中生じた様々な課題の調整は困難を極めました。無事稼働にまで至ったのは、これまでの本省、地方勤務での経験を活かしたこともありましたが、何より職員の方々の協力のもとチームで取り組めたことが大きかったと思います。

冒頭の再エネプロジェクトは一例ですが、人口減少対策など、地方が直面している課題は日本の課題の多くを先取りしています。課題解決に向けたリアルな「地方創生」に現場で取り組むことができることは、地方勤務の醍醐味であり、大きなやりがいを感じています。



予算ヒアリング。市の将来や市民生活にも影響する重要業務です。

圧倒的な現場感のもと課題に対応

公務員を志す皆さんは、誰しも「世の中の様々な課題解決に向け、人々に役立つ施策を立案し、効率的に実行したい」と考えているのではないのでしょうか。しかしながら、国、地方を問わず課題が複雑化している今、それは簡単なことではありません。

総務省の強みは、何といっても現場である「地方自治体のリアル」に精通していることです。一例に災害対応を挙げると、災害発生時、市町村はまさに住民の生命、財産の危機がすぐそこに生じているシビアな現場であり、私自身そうした場面に遭遇したこ

とがあります。そのような現場経験を持つ仲間が多くいるからこそ、国でも効果的な施策が立案可能となるのではないのでしょうか。

地方においては、現場で施策に取り組み、国においては、圧倒的な現場感のもと施策の制度設計に携わる、そうしたキャリアが可能となるのが総務省です。あなたも「地方自治体と一緒にって課題解決に取り組む」総務省を志してみませんか。

とある1週間

- 月** 政策調整庁内連絡会議に出席し、施策の方向性について議論します。
- 火** 経済対策の補正予算に関する副市長ヒアリングを行い、内容を精査します。
- 水** 市有施設の指定管理者選定委員会に委員長として出席し、議事進行等を行います。
- 木** 市議会本会議に出席し、議員からの一般質問に対して答弁します。
- 金** 退庁後、とあるイベントの打ち上げに参加、メンバーを労うとともに懇親を深めます。



PRIVATE

ボンタン、紅甘夏、大将季（だいまさき）など様々な柑橘の産地としても有名な阿久根市。その中でもボンタンアメで有名なボンタンは、昔からの市の特産品です。とある冬の週末には、そんなボンタンの果樹を持つ近所の方のご厚意により、子どもと一緒にボンタン狩りに。家族と団らんしつつ、豊かな自然の恵みを身近に満喫できる最高の瞬間です。

国と地方をつなぐ存在に

持続可能な中山間地域を目指して

みなさんは中山間地域と聞いて、どんなことをイメージしますか？田んぼが広がる風景や、山あいにはボツンと一軒家があるみたいなのところでしょうか。

私が勤務する山口県は、実に7割が中山間地域で、都市部と比べて人口減少のスピードが速く、高齢化率が90%を超える集落も多いため、日常生活の維持や交通手段の確保が難しくなる地域ができています。

どうしたらもっと地域が元気になるか、持続可能な地域社会が実現できるかということを住民の方々や市町の職員と一緒に考えながら、広域自治体である県の立場で、地域の暮らしを支え合う仕組みづくりや、新たな人の流れをつくる移住の促進、関係人口の拡大などに取り組んでいます。

地方での出会いや経験を糧に

現在は山口県で勤務していますが、以前は大分県にも赴任していたことがあります。仙台出身の私は、訪れたことがない県でしたが、先輩方から「まずはその土地を楽しんで、いろんな人と会おうといい」とアドバイスをいただいたこともあり、不安はありませんでした。

地方生活で、年代も職業も価値観も違う方々と出会い、深い関係性を築けたことは、「私を受け入れてくれた県や、出会った方々のために何ができるか」ということを考えながら仕事に打ち込むきっかけになり、そのような姿勢で取り組むことが、全国の地方のためになるはずだという信念を持って働いています。

知らない土地に入り込み、そこで得た知識や経験を、一緒に総務省で発揮してみませんか？



山口県総合企画部中山間地域づくり推進課長
渡邊 正城 WATANABE Masaki
平成16年入省



施策の方向性を村岡知事と協議

「地方」の現場から「国」を考える

市の5年先、10年先を見据えて

長野市は1998年の冬季オリンピック開催都市であり、当時日本選手団主将として活躍した荻原健司市長の下、「スポーツを軸としたまちづくり」を目指し、様々な取組を行っています。

その中で、私は財政部長として、市の財政運営を担当しています。オリンピック施設や小中学校の老朽化対策など多額の経費がかかる事業を控え、中長期の財政シミュレーションを行いながら、「市民生活の向上に必要な施策は何か？」「長野市の未来の発展に必要な施策は何か？」、限られた財源の中で、市長や市職員と様々な議論を交わし、予算をまとめています。

重責ではありますが、国の動向や他自治体の取組など、総務省で得た経験や人脈を活かして日々取り組んでいます。

地域の課題を国の施策に

総務省は、常に地方の視点で仕事をする唯一の省庁です。現在、市役所で勤務していますが、地方自治の現場は課題が山積しています。地域経済の活性化、地域公共交通の維持、地域の担い手不足、防災・減災、厳しい財政など。もちろん各自治体の創意工夫が必要ですが、一自治体では解決が困難な課題もあります。行政運営の根幹となる制度改革、自治体の取組を後押しする財政措置、先進事例の横展開など、総務省に期待される役割はますます大きくなっていくと思います。

地方への出向経験を通じて、現場の課題を肌で感じ、総務省に戻って、施策の企画立案に活かす。机上だけではない、現場主義が総務省の魅力の一つだと感じています。



長野市財政部長
卯田 圭吾 UDA Keigo
平成16年入省



同僚・後輩と長野マラソンに挑戦



八潮市企画財政部理事

赤間 博貴 AKAMA Hiroki
平成21年入省



大山市長との業務打合せ

国と地方、二つの視点で課題に向き合う

市民のため、自分がすべきこと

私は現在、埼玉県八潮市役所で勤務し、予算編成や公共施設の更新・廃止等の方針決定・進捗管理などの業務を統括しています。

総務省では自治体財政制度の運用に携わってきましたので、これまでに培った知識や経験を基礎に、日々の業務に取り組んでいます。特に大きな決断を下す時ほど、こうしたものを丁寧に振り返りながら、根拠を持って判断することを心がけています。

また、事業内容やその手法に違和感を持った場合、自分なりに考え、問題を提起することは、派遣職員の重要な役割の一つです。そのためにも、常日頃から様々な部署の職員とコミュニケーションを図り、お互いに意見を出し合えるような関係づくりに努めています。

国の視点で、自治体運営を考える

総務省の担当する業務には、地方税や住民基本台帳制度など、自治体の基礎的な業務に関わるものがたくさんあります。そのため、制度の創設・改正を行えば、全国の自治体の仕事のやり方が変わり、多くの方々の生活に影響を及ぼします。また時には、影響額が数百億円となるような制度の見直し作業に携わることもあります。

皆さんの暮らしに関わる大きな仕事を担当することについては、当然苦勞もありますが、その成果が誰かの役に立っていることを実感できた時の達成感は、総務省職員ならではのものだと思います。

この冊子など、何かをきっかけに私たちの仕事に興味・関心を持っていただいた方は、是非、総務省の門をたたいてみてください。

総務省に興味・関心のある皆様へ

新しい学びと挑戦の毎日

川上村は奈良県南東部、吉野川・紀ノ川の源流に位置する人口約1,200人の村です。日本三大人工林業の一つ「吉野林業」の中心地で、長い歴史と豊かな自然が魅力です。

私の仕事は村長・副村長の補佐や各課との調整、企画立案など、多岐にわたります。特に林業に関する業務は、川上村ならではの経験が積める貴重な機会です。また、移住支援などの地方創生や財政などの分野では、地域の実情を踏まえつつ、総務省で学んだ知識や経験を活かしながら、日々、職員を含めた様々な方とともに取り組んでいます。

自分と向き合うことの意義

就職活動を振り返ると、「自分はどうか考えるのか」を深く見つめることが大切だと思います。総務省職員として何をしたいのか？担当職員としてどんな姿勢で臨むべきか？新しい職場でこれまでの経験がどう活かせるのか？就活中に自分に問いかけた「自分はどうか考えるのか」という問いは、今も私の原動力になっています。

私自身は地方のために働くことのできる総務省に魅力を感じ入省しました。入省後は総務省での勤務はもちろんのこと、地方の現場を通じて「地方（現場）のために何ができるか？」を日々考え実践しています。このように総務省や地方公共団体での経験を通じて、成長を実感し、それを次のステージで活かせるのがこの仕事の魅力です。

就活で自分と向き合った時間は、必ず未来の糧になります。妥協せず、自分を信じて頑張ってくださいね！



川上村統括参与

井上 明 INOUE Akira
平成22年入省



地域おこし協力隊 隊員向け研修での講義



京都府総務部自治振興課

坂本 恭子 SAKAMOTO Kyoko
令和4年入省



休日は京都の自然・文化を大満喫

国と地方それぞれから得る学び

国と市町村の架け橋となって

私は現在、京都府職員として、行政改革や選挙に関する仕事をしています。厳しい財政状況や人口減少・高齢化といった変化する社会において、公共サービスを確実かつ効率的に住民に提供するためには、行政運営のあり方を考える必要がありますが、抱える課題や必要な対応は市町村によって異なります。そこで、国の制度が十分な効果を発揮し円滑な行政運営を行えるよう、市町村に対して適切な働きかけや情報提供・助言を行うことで、国と市町村をつなぐ役割を果たすことができよう努めています。

制度を設計する国と活用する地方、両方の立場で勤務することで、様々な角度から地方自治のあり方を考えることができ、日々勉強の毎日です。

総務省ならではの魅力

沢山の出会いがあること、それが総務省で働くことの魅力だと思います。

総務省では他省庁や都道府県、市町村など、様々な環境に身を置く職員と一緒に仕事をする機会が多く、新しい物の見方や価値観を吸収することができます。いずれの職員も「地方のために」という熱い志を持ってそれぞれのフィールドで業務に励んでいることを実感し、刺激を受けることも多々あります。また、地方出向を通じて、地方ならではの自然や文化に触れ、また一つ地方の魅力を知ることができます。

総務省での出会いは、仕事面はもちろん、自分自身の成長に繋がるものだと考えています。

ぜひ1度総務省に足を運んでみてください。1つ目の貴重な出会いがあるはずですよ。

官民によるサイバーセキュリティの確保

サイバーセキュリティの確保

私は現在、内閣サイバーセキュリティセンター（NISC）に出向し、政府関係機関の情報セキュリティの監視やインシデント発生時の対処、官民連携枠組み等を通じた情報収集、情報提供、支援等に関する業務に携わっています。

サイバー攻撃は年々被害が増加しており、これらに起因する予期しないセキュリティ事象などで、情報システム等の安全性の確保を脅かす状況をサイバーセキュリティインシデントと呼んでいます。

我々は、政府機関及び重要インフラ分野等で発生しているサイバーセキュリティインシデントに関する情報収集等を行い、それらについて各機関とも連携することで、更なる被害拡大を防ぐことを目的に、日々業務に取り組んでいます。

幅広い分野での経験

総務省では、電波、電気通信、放送に関する業務に携わらせていただき、NISCではこれまでと異なるサイバーセキュリティの分野に身を置いています。いずれも社会的影響力の大きい分野であり、組織は違えどもITの重要性が増しているからこそ、関係性が深いことを日々実感しています。これらの経験を通して自身の成長を感じつつ、微力ながらも皆様の生活に貢献できていることが今は幸せです。

私自身はまだまだ未熟ですが、親身になってくれる上司、優しい同僚、頼ってくれる後輩のおかげで、日々前向きに業務に取り組んでいます。現在、国家公務員を目指されている皆様にも、是非総務省での様々な経験を通してご活躍いただけたら嬉しいです。



内閣官房内閣サイバーセキュリティセンター
対処・外部連携ユニット主査

中里 伸成 NAKAZATO Nobushige
平成30年入省



家族と訪れた旅先での風景

チャレンジできる環境

政府の中心で

内閣官房内閣総務官室は、内閣の庶務を担う組織です。皆さんには馴染みのない組織かもしれませんが、例えば、内閣の重要政策等についての最も重い意思決定の場である「閣議」が円滑に行われるよう内閣総理大臣や内閣官房長官を補佐するなど、内閣の根幹を支えています。

私は、閣議の準備等を担当するほか、官報に関する事務も担当しています。法律や政令は、公布の閣議決定を経て、官報掲載されることにより公布となりますが、私はこの一連の手続を行っています。すべての法律・政令に関係する業務であるため、この機会を生かし、国の中枢で政府全体の流れや課題を日々勉強しています。

無限の可能性があります

飽き性なところがある自分にとって、一つの分野にとらわれずに仕事ができる点に魅力を感じて総務省に入省しました。入省して良い意味で裏切られたこととして、総務省は所掌分野だけでなく、働く場所や内容も多種多様という点でした。例えば、本省では制度の運用について考えたり、現場では地域の方から生の声を聞いたり、自分のやりたいことに合わせて、柔軟に働くことができます。そして、多様な業務を経験した職員が多いからこそ、多角的な視点からの意見交換が活発であり、役職関係なく個々の意見を尊重してくれる風通しのよさがあります。

自分のやる気次第で可能性が広げられる職場で、一緒に色んなことにチャレンジしてみませんか？



内閣官房内閣総務官室
内閣第3担当主査 兼 官報担当主査

藤井 望美 FUJII Nozomi
平成29年入省



終業後はジムに通っています

統計の作り手から使い手へ

日本経済の姿を映す指標

内閣府経済社会総合研究所は、内閣府のシンクタンクとして国民経済計算や景気統計の作成・公表をしており、私はGDP（国内総生産）の推計を担当しています。

GDPは一国の経済規模を示す指標として、日本経済の動向を把握するための重要な統計で、メディアやエコノミストからの注目度が高く、政策判断の基礎資料としても活用されています。国勢調査などの調査票を集計する統計とは違い、各省庁の様々な統計データを利用し計算して推計値を作成します。自分が携わった数字が景気判断や経済分析の材料となる重みを感じながら、適切な推計方法の検討や推計値の分析など、正確な計数公表に向けて取り組んでいます。

あらゆる場面に活きる仕事

私は総務省統計局で経済センサス・活動調査、労働力調査という2つの調査を経験しましたが、現在の担当ではまさにこれらの調査結果も推計に利用しています！統計は調査結果それ自体も多くの人に利用されますが、別の情報や資料のパーツに姿を変えて社会の様々な場面で活用されることもあるのだと、統計業務の重要性を改めて感じます。

調査や公表に向けた業務ではスケジュールに追われることも多いですが、総務省には業務改善や効率化のために一緒に考え行動する仲間がたくさんいます。研修制度が充実しているため入省後に学ぶチャンスもたくさんありますし、様々なノウハウを持っている上司や先輩から学ぶことも多いです。



内閣府経済社会総合研究所国民経済計算部国民支出課

宮原 百合子 MIYAHARA Yuriko
令和2年入省



週末は茶道のお稽古やお茶会へ



ラグビー観戦でリフレッシュ

い求む、求む！

コロンビアさん、日本はどうですか？

私はこれまで放送、国会、通信、広報、ICT利活用と様々な部署を経験してきました。国際関係は初挑戦となりますが、現在は南米の在コロンビア大使館の経済班に所属しており、主に総務省、環境省、国交省（インフラ）関係業務を担当しています。コロンビアにおける日本政府の窓口を担い、通信、気候変動分野など日本政府が推進する施策をコロンビア政府に対し働きかけたり、国際会議において駐在日本企業と協力し日本の技術をアピールするなど、コロンビアにおける日本のプレゼンスを高めるために日々奔走しています。

言葉（コロンビアはスペイン語）も含め勉強の毎日ですが、間違いなくこれまでにない経験を得ていると実感しています。

知れば知るほど

私は幅広い分野の仕事に携わりたいと考え総務省に入省しました。実際、ICTの利活用は多岐にわたり、そのベースとなるスマートフォンなどの通信サービスは今や皆さんの生活に不可欠なものだと思います。さらに、放送や郵便など、歴史あるサービスをいかに現代にマッチさせていくか、ということも重要な総務省のミッションであり、縦（新旧）にも横（分野）にも多様な業務があることが総務省の魅力かと思っています。さらに、年齢問わず自分の考えを発言できる機会も多く、多様な人材が長所を活かし合うことができる環境だと感じています。

多くの選択肢を検討される中で、まずは説明会等も活用していただき、是非もっと総務省のことを知ってください。



在コロンビア日本国大使館二等書記官

橋本 秀哉 HASHIMOTO Shuya
平成24年入省



プライベートも
家族と試行錯誤

ラオスの温かさに触れて

世界一何もない首都で過ごす

サバイディー。ラオスは東南アジアに位置し、首都ビエンチャンは世界一何もない首都とも言われるほどですが、時間の流れがゆったりしていて、ここで暮らす人もみんな穏やかで優しいのでとても過ごしやすい国だと思います。私はラオスで活動する日系企業の支援を担当しており、総務省ではあまり関わりの無かった業種の方々とお話しする機会も多く、勉強の日々です。

昨年はラオスがASEAN議長国ということもあり、多くのASEAN関連会議が行われ、10月にはASEANサミットも開催されました。また今年は日ラオス外交関係樹立70周年という記念すべき年でもあり実はラオスが今アツいです。これを機に多くの人にラオスを知ってもらい、好きになってもらえればと思います。

チャレンジしてみませんか？

自分が総務省に入省しようと思ったきっかけはいろいろな経験ができるといったからです。幅広い分野を所管している総務省の中でもとりわけICT分野は最先端の技術に関われること、また地方局や海外の大使館勤務など様々なフィールドでの活躍の場があることが魅力だと感じます。私は現在大使館に出向しており、昨年10月に総理がラオスに訪れた際には、総理が出席する会議や行事について関係国との連絡調整を行いました。日本と文化や考え方が異なる国との調整は大変な部分もありましたが、国際会議というダイナミックな舞台に携われたことは出向したからこそできたい経験になりました。皆さんも総務省でいろいろなことにチャレンジしてみませんか。



在ラオス日本国大使館二等書記官

加藤 剣 KATO Tsurugi
平成24年入省



一緒に総理出張を乗り切った仲間たち



休日には近隣国に旅行に行
ってリフレッシュ



一橋大学国際・公共政策大学院
(人事院行政官国内研究員)
高木 啓悟
TAKAGI Keigo
平成28年入省

院で学ぶ

理論と実践の橋渡し

私は現在、総務省を離れ、大学院で法律や公共政策を学んでいます。「在職中なのに大学院？」と驚かれるかもしれませんが、人事院の研修制度を活用して、一定期間業務を離れて研究に打ち込んでいます。

大学院では、様々なバックグラウンドをもつ方々と交流でき、自分の視野がぐっと広がることを実感します。そして、こうした学びの中で思うのは「理論と実践」の橋渡しの重要さです。職場で直面した課題や経験を、大学院で学ぶ諸外国の政策や理論をもとに見直すことで、理論と実践を行き来しながら学びが深まっていきます。この学びのサイクルこそが、社会人を経験した大学院での醍醐味だと実感しています。

こうして得た新たな知見を霞が関に持ち帰り、政策立案に活かす。このようなキャリアパスがあることも、ぜひ知っておいてください。

人と人をつなぐ

総務省の仕事は、放送、通信、郵便など、幅広い分野に及びます。一見バラバラに見えるかもしれませんが、これらには共通する大切な使命があります。それは、人と人をつなぐ「コミュニケーション」の環境を整えることです。

インターネットで友達と連絡する。テレビで世界の出来事を知る。手紙で思いを伝える。私たちの日常に溶け込んでいるサービスは、すべて「情報」を通じて人々をつなぎ、より豊かな社会を作り出しています。

総務省は、誰もが自由に、安心してコミュニケーションできる社会を作るため、技術の進歩に合わせてルールを整備し、新しいサービスの実現を支援しています。

そう考えると、とても身近な存在に見えてきませんか？

Q 総務省を志望するようになったきっかけは何ですか？

新しい技術に関わるような仕事がしたいと漠然と思っていたところ、たまたま総務省の発行する情報通信白書を手に取りました。5GやAIなどの先端技術が社会をどう変えるのか、それを支える政策の重要性を知り、総務省を志望するようになりました。

Q どのような業務に挑戦したいですか？

どんな業務でも前向きに楽しみながら取り組みたいと考えていますが、自分の強みや専門性を磨けるような分野に挑戦したいと思っています。総務省が担う幅広い業務の中で、学びを深めつつ、社会に貢献できる力を育むことができると考えています。

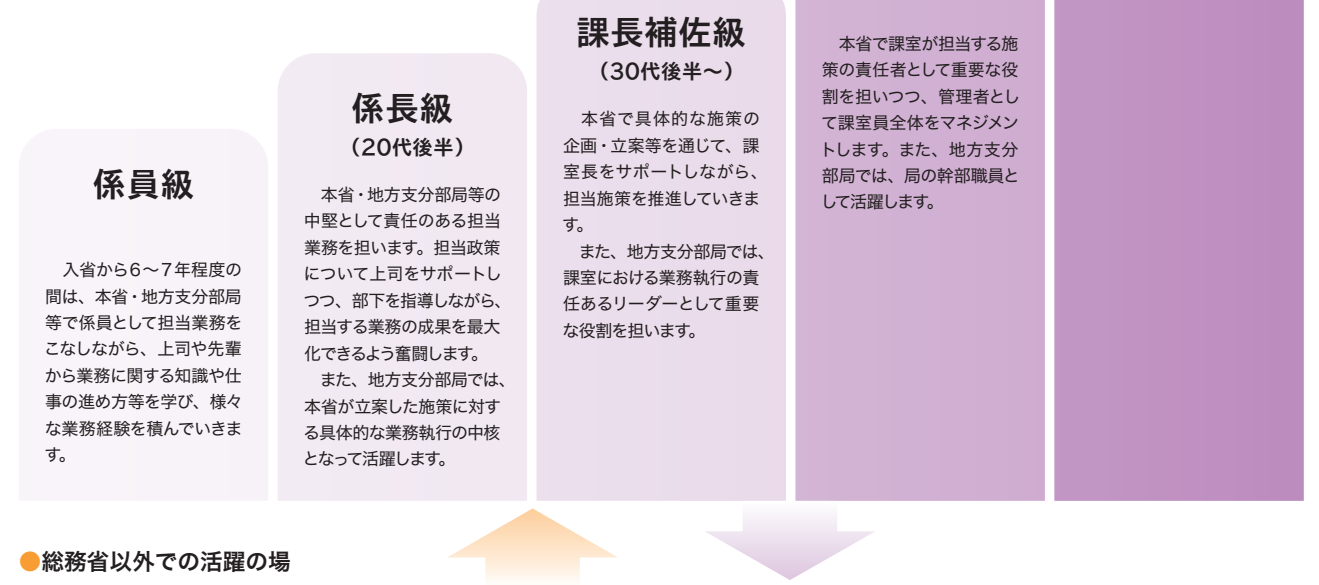


秋はキャンパス内の紅葉がとても綺麗です。

キャリアパス

入省後は、係員・係長・課長補佐等とキャリアを積み重ねながら、主に特定分野の業務（例えば行政管理・評価、統計、地方自治、情報通信など）を中心に担当します。概ね2～3年に一度人事異動があり、また、本省と地方支分部局との人事交流、地方自治体への派遣、他府省庁や在外機関への出向、国内外の大学等への留学など、多様な経験を積む機会があります。

●総務省でのキャリアパス



研修制度

総務省では行政官としてのキャリア形成をサポートするため、地方公共団体、民間企業や国際機関との人事交流、国内外の大学等で知見を高めつつ、総務省の行う政策等に資する研究等、多様な経験を積む機会が用意されています。また、数カ月間に渡って長期的に実施されるものから、数日で集中的に学習するものまで、様々な研修が用意されています。

現在や将来の役職に相応しい知識や技能習得のため、新規採用職員から、係長級、課長補佐級、課長級等、職位に応じた様々な階層別の研修を実施しています。

例えば入省直後に実施される新規採用職員研修では、省内各部署で実際に業務を担う職員から、部局の現状と課題や、所掌する行政分野を取り巻く状況を学ぶとともに、様々な講義を通じて、社会人として働く上で必要となるビジネスマナーや論理的な思考能力を養い、服務やコンプライアンス、情報公開制度、政策評価等、国家公務員として相応しい知識と教養を身に付けていきます。

総務省の幅広い行政分野に対応するため、各分野の専門的なスキルを身につけるための研修も豊富に用意されており、職員のニーズにあわせてスキルアップしていくことが可能です。

例えば統計分野では、統計研究研修所を有し、統計の基礎知識から統計理論、統計分析まで幅広い研修課程を設けているほか、情報通信分野では、情報通信政策研究所にて、キャリアパスに応じた総合研修、ICTの基礎知識（無線通信やネットワーク）、地域DX等の特定テーマを学ぶ様々な専門研修を受講することができます。

また、eラーニングやビデオ教材の活用にも取り組んでおり、業務が忙しい職員でも「学びたい時に」「何度でも」「手軽に」学習しやすい体制が整備されています。

総務省の所掌する行政分野においても、国際業務は年々拡大しています。この状況に対応し国際舞台で活躍する職員を育成するため、総務省独自に英語等の語学研修を毎年実施するほか、オンライン英会話（マンツーマン型）等の受講費用の一部補助も行っており、語学力の向上を支援しています。

日常の業務で外国人とやりとりがあり、コミュニケーションを円滑にしたい、海外赴任や海外留学に備えて勉強をしたい、国際会議への出席に向けて発言の練習をしたい、将来に向けてスキルアップを図りたいなど、様々なニーズを持つ職員がこの研修を受講し、語学力を高めています。

情報流通行政局郵政行政部
郵便課国際企画室長
青木 勇司 AOKI Yuji
平成4年入省



挑戦のフィールドは国境を越えて

現在の携わっている業務について

日本の優れた郵便システムを官民一体となって世界各国に売り込む海外展開事業と郵便の国際機関である万国郵便連合（UPU）の担当をしています。UPUの会合では、日本代表団団長として会合に出席し、国際会議の議長も務めています。今年は日本人唯一の国連専門機関のトップである目時正彦UPU国際事務局長の2期目の選挙を控え、日本チームが一丸となって再選を支えます。



国際会議にて

情報通信分野でのやりがいについて

ICT分野は、社会や人々の生活を支える重要な基盤を担っています。私が入省した時には思いもよらなかった最先端技術が生まれ、新たな価値を創造し、便利で豊かな社会を次々に実現しています。総務省では、そのICTの重要性を体感でき、大きなやりがいを感じることができます。さらに、グローバルな視点も求められ、国際的に活躍の機会が広がることも大きな魅力の一つです。変化が著しいこの分野でアイデアを駆使し、未来を切り開く経験は、自己成長と社会貢献を両立する最高のフィールドであると思います。

CAREER PATH

係員時代

入省後はNHKを担当する放送行政の部署、国内留学を経て、事業政策課に配属されました。当時1社体制だったNTTを現行の4社体制に分割にするプロジェクトに携わりました。とてもハードな毎日でしたが、上司から社会人としての仕事の流儀を厳しく教えていただき、今でも仕事をする上での指針となっています。また、その後、郵便課長として埼玉県の郵便局に出向し、局員と共に郵便サービスの向上について試行錯誤した経験は、現在の仕事に生かされています。



記念押印イベントにて

係長時代

総務省に戻り、二国間や多国間など国際分野を多岐にわたって担当しました。初の海外勤務となった在ベトナム日本大使館では経済担当書記官として、外交の重要性を実感しながら、数多くの経済協力案件に携わりました。南北に広がるベトナム全土を奔走する中で出会った人々との交流は、今も自分にとってかけがえのない財産となっています。



ベトナム書記官時代：日本が作った小学校での式典にて

課長補佐時代

米国カリフォルニア州公益事業委員会への派遣勤務では、アメリカならではの働き方を直接肌で感じました。その後、在スイス日本大使館で経済班長を務め、天皇陛下（当時皇太子殿下）をお迎えする貴重な機会にも携わりました。国内ではG7、G20、APECといった大臣級国際会議に関わり、また、北海道総合通信局情報通信部長として地方勤務も経験しました。国内外の多彩なフィールドで業務を遂行し、多くの出会いから得た経験が成果に結びついた時の喜びは何ものにも代えがたいものがあります。



G20大臣会合終了後に笑顔で記念撮影



統計局統計調査部消費統計課課長補佐
藤田 真弓 FUJITA Mayumi
平成11年入省

暮らしを支え、未来につなぐ仕事

現在の携わっている業務について

家計消費に関する統計調査の企画業務を担当しています。実地調査を行う都道府県・民間事業者と連携して毎月の調査を実施するとともに、調査方法の改善検討、調査書類の作成などを行っています。調査対象世帯の皆様が回答しやすいインターネット回答の推進や、コード決済など決済方法の多様化への対応なども進めています。

統計分野でのやりがいについて

統計は、「社会の情報基盤」として政策立案や企業経営、学術研究に活用されており、人々の暮らしを幅広い分野で支えられること、さらに過去から現在、未来の人々へと引き継いでいけることにやりがいを感じています。

また、統計は「調査の企画」「結果の分析・公表」を行う統計局だけではなく、「実地調査」を担う地方公共団体・民間事業者・統計調査員、「集計」を行う独立行政法人統計センター、そして調査に回答いただく世帯や企業・事業所の皆様と、多くの方々のご尽力によって作成できるものであり、この点も大きな魅力だと思います。

CAREER PATH

係員時代

最初の6年間は、統計センター（平成15年4月に総務省から独立行政法人化）の情報処理部門に配属され、統計調査の結果集計を行うプログラム開発業務を担当しました。プログラミング経験ゼロからのスタートでしたが、内部研修や実務を通じて上司・先輩方に教わりながら習得することができました。また、プログラムを開発するために、調査票や集計結果（統計表）の内容理解だけではなく、統計作成の一連の流れ（調査票のデータ化や審査、集計）も勉強できた経験が、その後、統計局で調査の企画や公表業務を行う中で力になっています。



職場で先輩と撮影

係長時代

経済統計の研究分析業務を担当した際は、サービス産業に関する月次調査の見直し業務に携わりました。それまで事業所を対象としていた調査に企業単位の調査を一部導入することで、傘下の事業所ごとに回答いただいていた企業の負担軽減や、企業の事業活動別売上高の把握による結果精度の向上を図るというものでした。この見直しにあたり、対象となる企業を訪問してご意見を伺ったり、サービス産業統計に関する国際会議に出席して各国の情報収集や日本の取組紹介をしたり、統計調査の節目の時期ならではの様々な経験を積むことができました。



国際会議で日本の取組を紹介

課長補佐時代

小売物価統計調査の企画・実施業務を担当した時期に、新型コロナウイルス感染症が拡大しました。この調査では調査員が店舗を訪問して商品価格やサービス料金を調査するのですが、入店制限や品薄などが生じる中、感染防止に配慮しながら調査を継続する方法を検討しました。調査対象店舗のご理解と都道府県・統計調査員のご尽力により、毎月、調査を実施することで、世界的な原油安に伴うガソリン価格の急落や旅行者の減少による宿泊料の下落、巣籠り需要による野菜価格の上昇など、感染症の影響による価格変動を捉えることができました。

総務省消防庁消防・救急課
救急企画室課長補佐
安藤 陽 ANDO You
平成15年入省

地方自治分野のススメ～知識と経験を活かせる人生に

現在の携わっている業務について

救急隊が行っている救急搬送や応急処置に関する企画・立案を行っています。現在は、救急隊員が傷病者のマイナ保険証を活用し、病院選定等に資する情報を把握する取組（マイナ救急）の全国展開を進めており、全720消防本部による実証事業を実施中です。マイナ救急の認知度向上のため、動画制作や広報に力を入れています。



マイナ救急概要

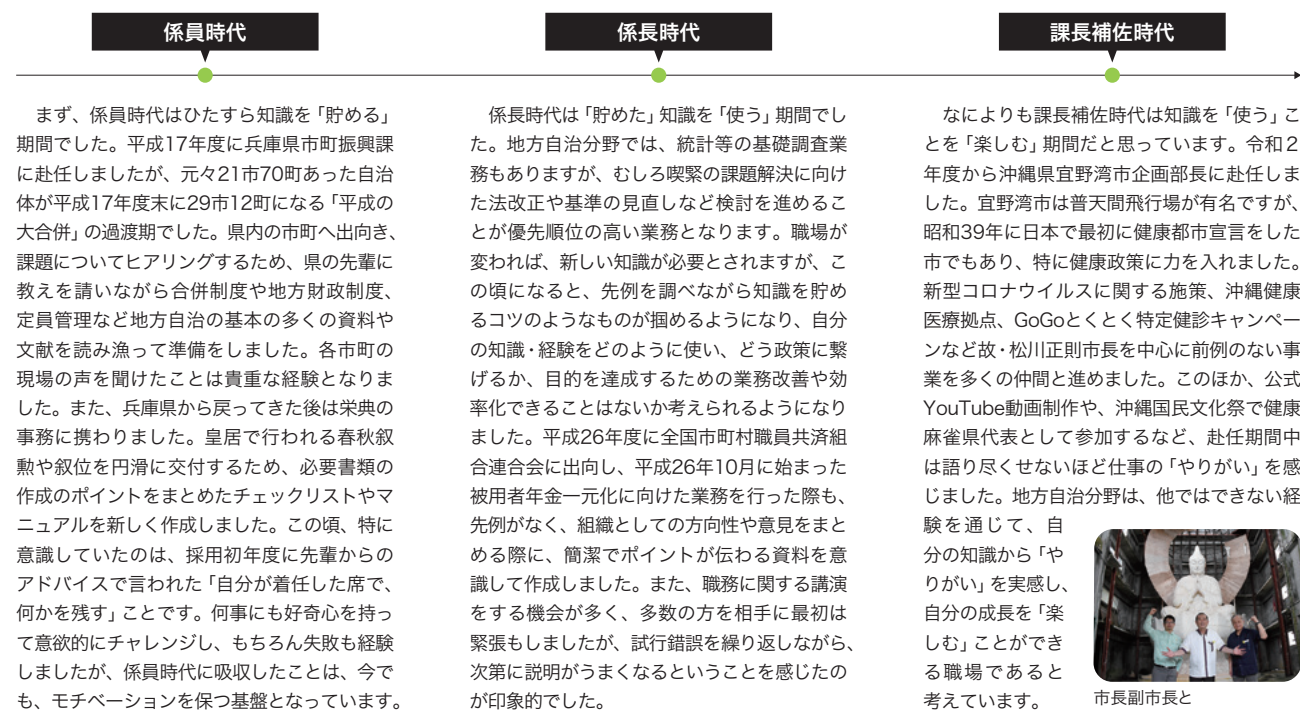


ショート動画

地方自治分野でのやりがいについて

一言でいうと、総務省は「やりがいを感じるために必要な知識・経験を得る機会が多い職場」です。特に地方自治分野においては、国・地方それぞれの立場で行政に携わる機会があり、多くの方と出会い、様々な知識・経験を積む機会があります。「やりがい」は、①困難な課題を②自分や仲間と一緒に③解決することで感じられるものだと考えています。困難な課題に取り組む前提として、知識が必要となりますが、一朝一夕で身につけることができないため、私の場合、「やりがいを感じた」のは、ある程度経験を積んだ後になりました。ここでは、私自身の経験を振り返りながら、知識を「貯める」「使う」そして「楽しむ」ということを中心に説明したいと思います。

CAREER PATH



市長副市長と

総務省におけるワークライフバランスの推進

総務省では、全ての職員が仕事とプライベート双方の満足度を高めつつ、職員一人ひとりの能力を最大限発揮できる職場環境を整備するため、多様な働き方の推進に省を挙げて取り組んでいます。

総務省ではどのような人材を求めていますか？

大臣官房秘書課働き方改革・業務見直し推進室では、省内の働き方改革を更に推進させるため、夏季に働き方改革集中取組期間を設定しているほか、幹部による「働き方宣言の作成」や職員への「総務省の働き方に関するアンケート」の実施結果を踏まえた業務の効率化等による超過勤務縮減の取組や、「多面観察」（部下から上司の評価も行ういわゆる「360度評価」）の導入、「1 on 1 ミーティング」（上司と部下との間で行う1対1の対話）の実施など、様々な取組を進めてきました。より一層働きやすい職場環境となるよう、職員の声を聞き、適切に実態を把握した上で、必要な改革・見直しに取り組んでいます。また、全省的な業務見直しを進めるため、新しい業務改善ツールの活用アイデアや好事例の紹介を行う省内勉強会や研修を定期的に開催しています。令和5年には省内の働き方改革・業務見直しに係る取組を推進する有志職員のコミュニティ「働き方サポーター」の活動を開始し、省内の先進的な取組を組織横断的に共有する等、サポーターを起点に省内の働き方改革の輪が広がっています。



テレワークや両立支援制度等を活用した多様な働き方の実現

総務省はテレワークの推進官庁でもあり、全職員がテレワークできる環境を整え、多様な働き方の選択肢の1つとしてテレワークを推進しています。特に、テレワーク勤務の質の向上を図ることにより、日常の働き方として、更に定着させることを目指しており、ペーパーレス化の更なる推進や、打ち合わせや会議のオンライン化、業務の仕方そのものの見直しにも取り組んでいます。また、職員の事情に応じて活用できるフレックスタイム制、早出遅出勤務、介護休暇等の両立支援制度も充実しています。そのほかにも、年次休暇の取得促進や超過勤務の縮減等、総務省は、今後も、育児や介護、自身の障がい等、様々なバックグラウンドを抱えた職員だけでなく、全ての職員のワークライフバランス実現に向けた取り組みを進めていきます。



仕事と家庭の両立支援制度

●産前・産後休暇

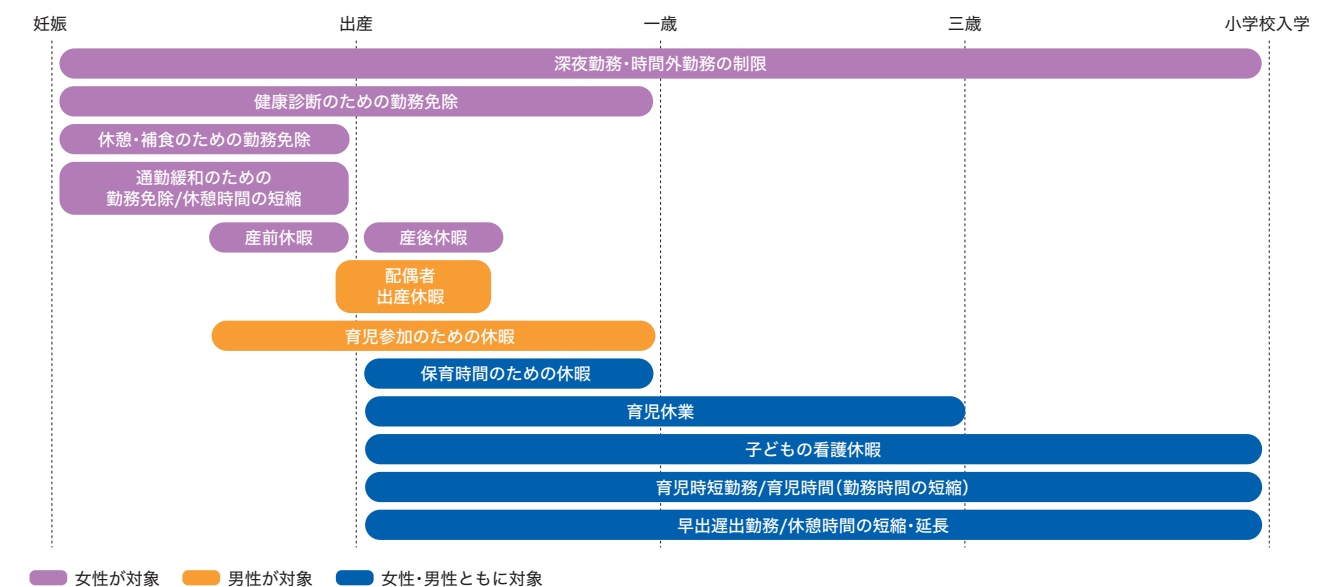
産前6週間前（多胎妊娠の場合は14週間前）から出産の日まで、出産の翌日から8週間を経過する日まで休暇を取得することが可能です。

●配偶者の出産休暇、育児参加のための休暇

妻の出産に伴う入院退院の付添い等を行うための休暇（2日）及び妻の産前期間から出産の日以後1年の間に、生まれた子や未就学児を養育するための休暇（5日）を取得することが可能です。

●育児休業・育児短時間勤務・育児時間

子どもが3歳になるまで、一定期間、夫婦ともに育児休業することが可能です。また、子どもが小学校に入学するまでの間、通常より短い勤務時間で勤務することが可能です。



採用関連Q&A

Q1 総務省ではどのような人材を求めていますか？

総務省は、行政管理・評価、統計、地方自治、情報通信といった非常に幅広い分野を所管しており、それに対する課題は日々変化してきます。そういった状況の中で様々な業務や社会経済情勢の急速な変化に柔軟に対応でき、何事にも「チャレンジ」しようとする前向きな方を歓迎しています。

Q2 官庁訪問はどのように進むのですか？

官庁訪問を行う前に、行政管理・評価、統計、地方自治、情報通信の中から希望分野を選んでいただきます。その希望をもとに、現在その分野で働いている職員を中心に面接を行います。ぜひ、官庁訪問を通じて、政策の最前線を体感してください

Q3 公務員試験の順位や年齢は採用に影響しますか？

点数や順位、年齢は全く関係ありません。「人物本位」での採用を行っているため、官庁訪問ではみなさんの魅力や熱意を存分にアピールしてください。

Q4 統計や情報通信の専門知識や語学のスキルは必要ですか？

入省時に特別な知識は必要ありません。総務省では所管分野と関係のない学問を専攻していた方も多く採用しており、出身学部にかかわらず、様々なフィールドで活躍されています。また、業務に関する専門的な知識や語学については、研修が用意されています。仕事を進めながら活きた知識を身につけることが大事だと考えます。

Q5 説明会は参加した方がいいですか？

説明会への参加有無については採用にあたって関係はありません。ただ、総務省で実際に働いている職員の雰囲気を感じられるため、是非説明会に参加いただくことをオススメします。

Q6 人事異動について自分の希望は反映されますか？

毎年、今後のキャリアプランについて自分の希望を伝える制度があり、この希望を考慮しつつ適性を踏まえて、配属・異動を決定しています。

過去の採用状況

			令和6年度	令和5年度	令和4年度
一般職事務系・技術系（大卒程度）	本省採用者		51（18）	68（28）	58（21）
	地方支分部局採用者	管区行政評価局 行政評価支局 行政評価事務所	28（13）	28（15）	31（13）
		総合通信局 総合通信事務所	48（23）	53（24）	53（27）
一般職事務系（高卒程度）	本省採用者		7（5）	11（4）	9（2）
女性の割合			44%	44%	42%

※ 1：カッコ内の数字は女性の内訳。 ※ 2：各年度試験には10月等に採用された人も含む。



採用担当からのメッセージ

みなさんは、「総務省」と聞いて何を思い浮かべますか？
このパンフレットをご一読いただいてわかるように、
総務省は、国の基本的な行政制度の管理・運営、地方自治や消防・救急行政、
情報通信技術（ICT）を活用した成長戦略の実現と幅広い分野を担っており、
この総合性を活かしながら、国民生活がより快適になるよう取り組んでいます。

しかし、これらは一朝一夕に実現するものではありません。
複雑化する社会課題に併せ、国民が求める“快適な暮らし”は、
刻々と変化していきます。
だからこそ、多種多様な価値観を持った人たちが、常にアクティブな行動力を持ち、
国民目線で課題を捉え、暮らしの在り方を考える必要があります。

みなさんが思い描く“快適な暮らし”とは何ですか？
総務省で一緒に実現していきましょう。
みなさんの来省を心よりお待ちしております。

総務省採用担当一同

説明会のご案内

総務省では国家公務員を目指している方に向けて総務省への業務の理解を
深めてもらうため様々な説明会を開催しています。
説明会の最新情報は総務省の一般職採用ページをご覧ください。

